

全国学力・学習状況調査の活用について
～児童生徒の実態把握と
保護者・地域と連携した学力向上の手立て～

I 全国学力学習状況調査の概要について

II 川崎市教育委員会の取組

III 各学校の取組

I 基本的な考え方

II 保護者への結果報告書例

III 個人票の取扱いについて

IV わかる授業の取組

参考 川崎市学習状況調査について

I 全国学力学習状況調査の概要について

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらにそのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

小学校6年生、中学校3年生の全児童生徒

3 実施日

平成26年4月22日（火）

4 調査事項

（1）児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査

小学校・・・国語、算数 中学校・・・国語、数学

- ・それぞれの学年・教科に関して、主として「知識」に関する問題（A問題）、主として「活用」に関する問題（B問題）

イ 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

（2）学校に対する調査

- ・学校における指導方法に関する取組や学校における人的、物的な教育条件の整備状況等に関する質問紙調査

5 調査結果等の提供

- ・市教育委員会には、市全体の状況、及び各学校の状況が提供される。
- ・各学校には、当該学校全体の状況、各学級及び各児童生徒に関する調査結果及び個人票が提供される。
- ・各学校への調査結果の提供日は、平成26年度については8月26日の予定。

II 川崎市教育委員会の取組

1 概要版（参考資料1）の公表（平成26年8月25日予定）

市全体の各教科の平均正答率、良好であった設問、課題となっている設問
質問紙調査の抜粋

2 全国学力・学習状況調査結果について（別添資料2）の公表（平成26年度は9月末予定）

3 全国学力・学習状況調査報告書作成に関する研修会の実施（平成26年9月1日予定）

- ・各学校が作成する全国学力・学習状況調査結果の報告書の、基本的な考え方、提供する内容、数値目標の設定等、作成上の留意点等についての研修を実施する。

4 全国学力・学習状況調査に関わる授業改善についての説明会（平成26年10月31日予定）

- ・全国学力・学習状況調査を基にした授業改善について、国立教育政策研究所学力調査官を講師に招き、研修を実施する。

Ⅲ 各学校の取組

I 基本的な考え方

1 趣旨

- (1) 全国学力・学習状況調査の調査結果は、各学校の学力や学習状況を客観的に示したものである。したがって、調査結果を地域・保護者に示すことは説明責任を果たすとともに、児童生徒の学力向上に向けた取組を学校と地域・保護者が一体となって推進することにつながるものである。(実施要領より)
- (2) 全国学力・学習状況調査の調査結果の提示にあたっては、各学校が自校の特色や教育目標等に照らし、教育指導の改善に役立てられるよう、内容や方法を設定する。

2 全国学力・学習状況調査を活用した学力の把握について

全国学力・学習状況調査では、「教科に関する調査」、「児童生徒に対する質問紙調査」、「学校に対する質問紙調査」の3つから、児童生徒の学力や学習の状況を調査している。

「学力」については、学力の3要素である、「基礎的・基本的な知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学習意欲」の視点でとらえることが大切である。それとともに、全国学力・学習状況調査の報告書には、「言語活動・読解力」「学習習慣」「指導方法」「学校の授業以外での学習」「生活習慣」「自尊感情」「規範意識」等と学力との関連も示されている。このことから、各学校が学力向上への取組を考える上では、教科調査の正答率等だけでなく、質問紙調査のデータ等も踏まえながら、検討していくことが必要である。

また、児童生徒一人一人に渡される個人票には、教科調査の各設問についての本人の結果と全国の正答率、分布図が示されており、本人の学力の状況を把握する資料となる。

なお、実施要領にも示されているとおり、調査によって測定できるのは学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面であることについて、保護者・地域に十分、理解が得られるよう努める必要がある。

3 報告書の内容について

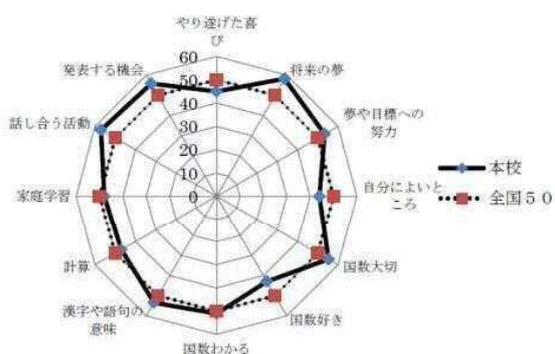
(1) 調査結果の概要

各教科の調査、質問紙調査の調査結果の概要を示す。各学校ごとに児童生徒の学力向上のために大切にしていきたい項目等を取り上げ、地域や保護者にわかりやすく図で示す方法もある。

(2) 調査結果の内容

学校の取組の成果や課題としてとらえられる数値を提示する。その際、教科と質問紙の調査結果の双方を、各学校の状況に照らしバランスよく提示する。

教科の調査については、各設問ごと、領域ごと、問題形式ごと等の正答率や無解答率について数値を示す。質問紙調査については、各設問や分類(学習習慣、規範意識、等々)ごとの回答状況を数値で示す。



*全国結果を50とし、それに対する本校の結果を表わしています。

(3) 調査結果の分析

(2) で示した内容について、学校としてのとらえ方（良い状況、改善を要する状況）や要因等について示す。

(4) 今後の取組

課題として取り上げた内容について、学力向上に向けた取組や分かる授業づくり等の改善策を示し、次年度に向けて目標とする数値を示す。

4 分析の方法について

(1) 各教科の調査

● 正答率

80%以上（記述の問題では70%）・・・「良い状況と考えている」

50%未満、無解答率10%以上・・・「課題としてとらえている」

※数値が上記に満たなくても、「昨年度との比較」や「全国の正答率」との比較から「改善されてきている」「全国の平均正答率は上回っている」といった表現ができる。

● 度数分布表・・・特徴を述べる

「正答数が〇〇問の周辺に、分布が多く見られます」

(2) 児童生徒質問紙

・「当てはまる」＋「どちらかといえば、当てはまる」80%以上

「良い状況ととらえている」「日頃の～の指導の成果ととらえている」

・「当てはまる」＋「どちらかといえば、当てはまる」60%未満

「課題として受け止めている」「今後、指導の改善が求められている」

※数値が上記を満たさなくても、「昨年度との比較」や「全国の状況との比較」から、「改善されてきている」「全国基準は上回っている」といった表現ができる。

※「当てはまる」のみの数値でも、「昨年度との比較」や「全国の状況との比較」から、「良い状況ととらえている」「改善してきている」といった表現ができる。

5 子どもが「わかった」ことが実感できる授業の視点

平成25年度の全国学力・学習状況調査報告書「クロス集計」には、「国語、算数・数学の授業の内容がよく分かりますか」という質問の回答状況と教科調査の正答率の相関が明らかであることが数値によって示されている。教育委員会としては、この点を重視し児童生徒にとってわかりやすい授業を展開することは、学力向上に向けて重要な要素であると考えている。

各学校では、この点を踏まえ「国語、算数・数学の授業の内容がよく分かりますか」の質問に対する回答状況と分析、考察等について提示する。（VI「わかる授業の取組」参照）

6 数値目標の設定について

(1) 保護者・地域に示す数値の例

- ・教科の調査の領域ごとや評価の観点ごと、問題形式ごとの平均正答率や無解答率
- ・学習意欲に関する質問「勉強が好き」「勉強が大切」「将来役立つ」「諦めずに考える」などの割合
- ・将来の夢や目標を持っている割合

- ・自分にはよいところがあると思う割合
- ・学校が楽しいと思う割合
- ・家庭学習に関する質問「家で予習をしている」「復習をしている」などの割合

(2) 数値の示し方

①単純に目標とする数値を示す。

「〇〇%をめざします。△△%アップをめざします。」というように数値を設定する。

②経年変化で数値を示す。

「今年度以上をめざします。」というような経年比較的に数値を設定する。

③学校の状況把握の段階で数値を示し、言葉による目標を設定する。

「今年度は、〇〇について、□□%という結果であり、課題としてとらえております。△△の改善を図り、児童生徒から◎◎といった声が聞かれるよう努めます。」というような設定の仕方が考えられる。

7 情報提示の時期

- 調査結果が提供された後、前期末（10月上旬）を目途に、分析結果及び今後の取組について提示する。
- 提示した今後の取組を推進し、川崎市学習状況調査の調査結果や学校評価の質問項目等も活用しながら取組の検証をする。

8 個人票の取り扱いについて

個人票は前期末頃に実施される面談や教育相談等の機会を通して児童生徒・保護者に確実に渡すこととする。その際、一人一人の学力向上につながるよう、個人票の見方とともに調査結果をもとにした学習方法の改善等についても児童生徒・保護者と共通理解する必要がある。

9 教育委員会の取組（区教育担当による支援・指導）

区教育担当は、学校訪問等を通して各学校の教育活動についての状況を把握し、支援・指導を行っている。区教育担当は、このような日頃の取組を生かし、各学校が全国学力・学習状況調査結果の報告書を作成するにあたって、適切に助言する。報告書には、各学校を支援・指導している区教育担当としての立場から、各学校の日頃の取組の成果や課題についてのコメントを記載する。

Ⅱ（１） 結果報告書 学校教育目標等に即した分析

平成 26 年 10 月〇日

保護者の皆様

川崎市立〇〇中学校

校長 △△ □□

平成 26 年度 全国学力・学習状況調査の結果概要と

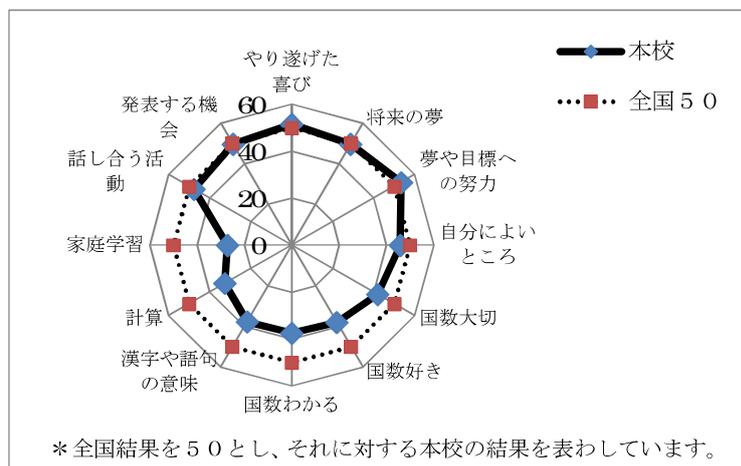
〇〇中学校における今後の取組について

日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

4 月 22 日（火）に 3 年生を対象に実施されました全国学力・学習状況調査の各学校の調査結果が配布されました。調査結果をもとに、本校の学校教育目標ならびに学校経営方針を踏まえ、学校づくりに生かす視点から分析を行い、今後の取組について報告いたします。

なお、本調査によって測定できるのは学力の特定の一部分であり、学校の教育活動の一側面であることが調査の実施要領に示されております。したがって、本資料につきましては、本校の教育活動の成果と課題を把握するための一つの指標としてお考えいただきたいと存じます。今後も生徒一人一人に寄り添った教育活動の推進に努めてまいりたいと考えております。

1 調査結果概要



○豊かな心を持ち、主体的に活動できる力に関わる設問についての本校の生徒の回答状況は、全国基準とほぼ同程度でした。

○基礎的・基本的な知識・技能の習得について、国語・数学の調査結果や生徒質問紙の回答状況から、課題として受け止めています。

○生徒主体の授業づくりについては全国の基準値と同程度の状況となっております。

2 学校教育目標等の実現に向けた調査結果を生かした今後の取組

成果 課題 分析 今後の取組

※ 示している数値・・・「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計

(1) 学校教育目標「豊かな心を持ち、主体的に活動できる力の育成」

- ①物事を最後までやり遂げてうれしかったことがある。96.1%
 - ②将来の夢を持っている。77.2%
 - ③将来の夢や目標を実現するために努力している。70.2%
- ①自分にはよいところがある。58.2%

- ①本校では、授業や各行事など、様々な場面で生徒主体の活動になることを重視しております。その成果が表れている数値ととらえております。
- ②③「将来に関する意識」については、肯定的な回答が70%台ですが、全国の状況を上回っております。計画的なキャリア教育推進の成果ととらえております。
- ①自己肯定感の回答状況については課題のある結果ととらえております。授業や行事等での達成感がその後の自信につながるよう、これまで以上に生徒主体の活動の場を設けるとともに、声かけ等の支援に努めます。

【次年度への取組】 「自分にはよいところがある」の数値、70%以上をめざし、生徒が自分に自信を持てるよう、生徒一人一人が活躍できる場面作りに努めます。

(2) 学校経営方針「基礎的・基本的な知識・技能の習得」

①勉強は大切である。

国 83.9%、数 71.7%。

②数学ができるようになりたい。92.2%

③分からないことがあるとそ
の場で先生に聞く。29.5%
(全国 12.1%)

①国語 漢字の読み書き、語句
の意味等の問題 (A⁸) の平
均正答率が 64.9%である。

②数学 正負の数、文字式 (A¹~³)
等、基本的な計算問
題等の平均正答率が 55.1%で
ある。

③家で、学校の予習、復習をし
ているはそれぞれ 16.9%、
20.2%である。

①②「学習の大切さ」や「できるようになりたい」といっ
た学習に対する意識は良い状況と考えております。

③「分からないところがあると先生に聞く」という生徒の
割合が高く、授業中の生徒と教員の関係のよさがうかが
えます。

①②本校では、それぞれの教科で基礎的・基本的な内容が
確実に定着できる授業作りに重点を置いております。今
回の調査結果からは、国語の基本的な語句に関する問題、
数学の基本的な計算力に関する問題の正答率が全国の状
況よりも低く、課題としてとらえております。基礎的・
基本的な内容が確実に身に付けられるよう、授業では繰
り返し学習の充実等、また朝の時間を使った基礎的・基
本的な内容のドリル学習等に取り組みます。

③家庭での学習についても、全国の状況と比べると、予習
復習を行っている生徒が少ない状況となっております。
宿題の内容や取り組み方の指導に努めてまいります、
ご家庭におきましても、ご協力いただけますようお願い
いたします。

【次年度への取組】・基礎的・基本的な知識・技能の定着に関する問題の正答率が今年度よりも5%
以上向上できるよう指導の工夫に努めます。

・現在、家庭と連携しながら進めている家庭学習の充実に向けた取組をさらに推
進し、「家で学校の予習・復習をしている」と回答する生徒がそれぞれ5%ずつ
増えることをめざします。

(3) 学校経営方針「生徒主体の授業づくり」

①授業で、生徒間で話し合う活動
が行われている。76.0%

②普通の授業では、自分の考えを
発表する機会が与えられてい
る。74.1%

①国語の授業の内容がよく分か
る。64.3%

②数学の授業の内容がよく分か
る。53.1%

①②「普通の授業では、自分の考えを発表する機会が与えら
れていると思う」「普通の授業では、生徒の間に話し合い
活動をよく行っていると思う」と回答した生徒の割合か
ら、学校が生徒主体の授業づくりをめざした取組の成果
が表れていると考えております。

①②「授業の内容がよく分かる」についての回答状況には課
題が見られます。授業の初めにその授業で学習すること
のめあてを明確にしたり、授業の終わりに学習したこと
を振り返る時間をとったりすることで、生徒にとって授
業がより分かりやすいものになるよう努めます。

【次年度への取組】子どもたちが「分かった」ことが実感できる授業づくりに努め、「数学の授業の内
容がよく分かる」について55%をめざしたいと考えています。

〇〇中学校では、学習に苦手意識をもつ子ども達のために、授業者以外の教員が授業へ入り、学習の
サポートを行う体制を整えております。この取組によって、子ども達と先生方との信頼関係が構築さ
れ、一人ひとりの学習に取り組む眼差しは、年々輝きを増してきています。

生徒会を軸とした自主活動に重きを置く学校行事等の運営も、子ども達に達成感を与え、学校生活へ
の期待を大きくしているものと考えています。

教育委員会 〇〇区・教育担当

Ⅱ（２） 結果報告書 教科の調査を主にした分析

平成 26 年 10 月〇日

保護者の皆様

川崎市立〇〇小学校

校長 △△ □□

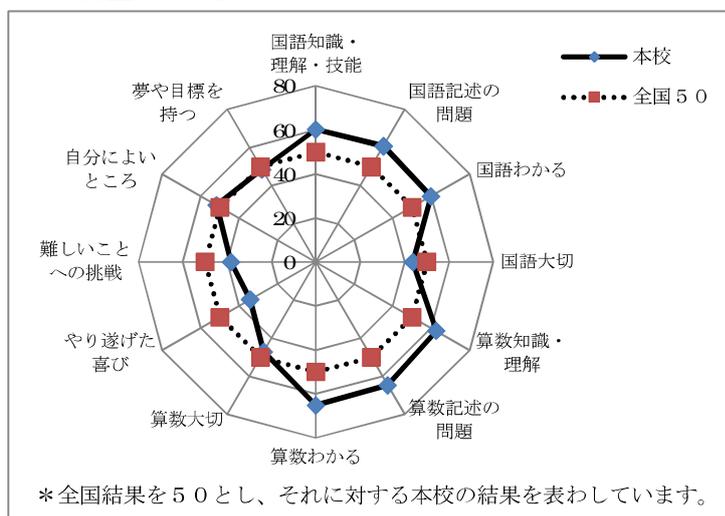
平成 26 年度 全国学力・学習状況調査の結果概要と 〇〇小学校における今後の取組について

日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

4 月 22 日（火）に 6 年生を対象に実施されました全国学力・学習状況調査の各学校の調査結果が配布されました。調査結果をもとに、本校の学校教育目標ならびに学校経営方針を踏まえ、学校づくりに生かす視点から分析を行い、今後の取組について報告いたします。

なお、本調査によって測定できるのは学力の特定の一部分であり、学校の教育活動の一側面であることが調査の実施要領に示されております。したがって、本資料につきましては、本校の教育活動の成果と課題を把握するための一つの指標としてお考えいただきたいと存じます。

1 調査結果概要



○教科の調査については、国語・算数ともに、基礎的・基本的な問題、記述式の問題ともに、正答率が全国平均を上回っております。

○教科に対する意識については、「授業がわかる」は良い状況ですが、「大切である」については課題となっております。

○意識調査については自己肯定感や将来に関することについては全国と同様の状況ですが、成就感や挑戦心については、全国の状況を下回っております。

2 調査結果をもとにした今後の取組

成果 課題 分析 今後の取組

※ 示している数値・・・「当てはまる」の数値。（ ）は全国の数値

(1) 国語の調査結果

- ①知識・理解・技能の平均正答率
72.9% (62.6%)
- ②記述式の問題2問の平均正答率
53.4% (42.5%)
- ③国語の授業の内容がよく分かる
43.1% (33.3%)

- ①国語の勉強が大切である
56.9% (63.1%)

- ① 漢字の読み書きや諺の意味、接続語の使い方等、基礎的・基本的な内容の定着は良好な状況ととらえています。
- ② 記述式の問題2問の平均正答率は53.4%ですが、全国平均正答率を10%程度上回っております。
- ③ 「国語の授業の内容がよくわかる」の割合は43.1%で、「どちらかといえば、当てはまる」もあわせると84.5%で良好な状況ととらえております。
- ① 「国語の勉強が大切である」と回答した割合は全国の状況を下回っております。国語の大切さが感じられる授業作りを進めていく必要があります。

【次年度への取組】 「国語の勉強が大切である」(①)と感じる児童の数値、60%以上をめざし、児童が主体的に学習に取り組めるよう、授業の工夫を図ります。

(2) 算数の調査結果

- ①知識・理解の平均正答率
83.2% (70.5%)
- ②記述式の平均正答率
57.9% (43.2%)
- ③算数の授業の内容がよく分かる
60.3% (45.2%)

- ①解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える
34.5% (42.7%)

- ① 概数や余りのある除法、面積の求め方、基礎的・基本的な内容の定着は良好な状況ととらえています。
- ② 記述式の問題5問の平均正答率は57.9%で、全国の平均正答率を大きく上回っております。
- ③ 「算数の授業がよく分かる」と回答した児童の割合も全国の状況と比較すると良い状況と考えております。
- ① 「算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える」と回答した生徒は34.5%で、課題としてとらえております。学習にねばり強く取り組む態度を育成するために、発展的な問題に友達と協力しながら解決していくような授業展開を設定していきます。

【次年度への取組】・一人一人の児童に目を向けた授業作りを推進し「算数の授業がよくわかる」(③)について今年度以上の数値をめざします。

・協働的な学習を重視した授業づくりに取り組み、「諦めずにいろいろな方法を考える」(①)について、5%以上向上することをめざします。

(3) 質問紙調査

- ①自分にはよいところがある
36.2% (34.5%)
- ②将来の夢や目標を持っている
70.7% (72.1%)
- ③普段の授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている
51.7% (46.0%)

- ①物事をやり遂げて、うれしかったことがある 55.2 (71.0%)
- ②難しいことでも、失敗を恐れず挑戦する 12.1% (23.8%)
- ③普段の授業で、友達と話し合う活動をよく行っている
22.4% (37.6%)

- ① ①② 自尊心
「自分にはよいところがある」と回答した児童の割合は、「どちらかといえば当てはまる」まで含めると、79.3%であり、全国の状況とほぼ同程度となっています。しかし、達成感(①)、挑戦心(②)については、課題としてとらえております。授業においても、達成した喜びが感じられる指導、挑戦することのすばらしさがわかる指導に努めてまいります。
- ② 将来に関する意識
「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童の割合は「どちらかといえば当てはまる」まで含めると90%を超えており、良好な状況と考えています。
- ③ ③ 授業改善にかかわること
普段の授業で、児童が自分の考えを発表する機会については良好な状況ととらえておりますが、友達と話し合う活動については改善が必要であると考えております。

【次年度への取組】・授業や行事等の機会を通して、挑戦することのすばらしさや達成感を味わわせ、①②の数値が今年度よりも5%向上することをめざします。

・授業に話し合い活動を取り入れ③の数値が10%向上することをめざします。

教育委員会から

〇〇小学校は、「子どもたちのわかる喜びを大切にした授業」を推進し、その成果が子どもたちの学力向上へとつながってきました。学級活動や学校行事などでは、子どもたちが自信をもって活動できる場を増やしており、夢や目標を持って楽しく生き生きと学校生活を送っている姿が見られます。

〇〇区・教育担当

Ⅱ（３） 結果報告書 経年変化による分析

平成 26 年 10 月〇日

保護者の皆様

川崎市立〇〇中学校

校長 △△ □□

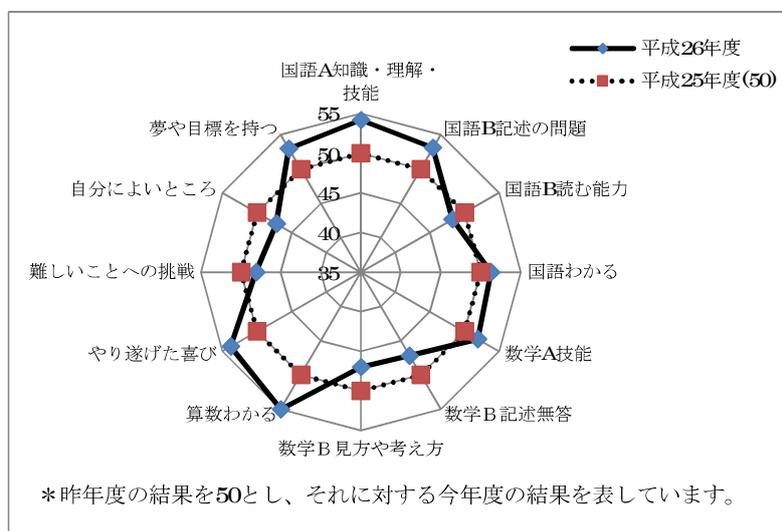
平成 26 年度 全国学力・学習状況調査の結果概要と 〇〇中学校における今後の取組について

日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

4 月 22 日（火）に 3 年生を対象に実施されました全国学力・学習状況調査の各学校の調査結果が配布されました。調査結果をもとに、本校の学校教育目標ならびに学校経営方針を踏まえ、学校づくりに生かす視点から分析を行い、今後の取組について報告いたします。

なお、本調査によって測定できるのは学力の特定の一部分であり、学校の教育活動の一側面であることが調査の実施要領に示されております。したがって、本資料につきましては、本校の教育活動の成果と課題を把握するための一つの指標としてお考えいただきたいと存じます。

1 調査結果概要



○国語、数学ともに、基礎的・基本的な内容の定着をみる問題、記述式の問題ともに、昨年度を上回る結果となっております。

○国語の「読む能力」、数学の「数学的な見方や考え方」をみる問題については、昨年度を下回る結果となっております。

○意識調査については、達成感や将来に関することについては、向上してきていますが、自己肯定感、挑戦心は昨年度を下回る結果となっております。

2 調査結果をもとにした今後の取組

【昨年度より向上 下降 】 分析 今後の取組

※ 数値…「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」の合計値、() は昨年度との比較値

(1) 国語の調査結果

- ①知識・理解・技能の平均正答率
76.6%(+4.2%)
- ②記述式の平均正答率
64.6%(+3.1%)
- ③国語の授業の内容がよく分かる
72.1%(+1.3%)

- ①読む能力
69.5%(-1.7%)

- ①漢字の読み書きや語句の意味の理解等、基礎的・基本的な内容については昨年度よりも向上しています。
- ②記述式の問題 3 問の平均正答率も昨年度を 3.1% 上回っております。
- ③「国語の授業内容がよく分かる」と回答した割合が若干増えてきています。生徒主体の授業づくりに取り組んでいる成果と考えております。
- ①読む能力については昨年度をやや下回っております。文章の内容をしっかりと理解しながら読む学習活動の充実に取り組み、改善を図ります。

【次年度への取組】 「国語の授業がよく分かる」(③)の割合が75%以上をめざし、生徒主体の授業づくりにこれまで以上に努めます。

(2) 数学の調査結果

- ① 数学的な技能の平均正答率
70.1% (+1.9%)
- ② 数学の授業の内容がよく分かる
81.0% (+5.0%)

- ① 記述式 7 問の平均無解答率
32.1% (+1.9%)
- ② 数学的な見方や考え方の問題の
平均正答率
37.2% (-3.0%)

- ① 正負の数、文字式、方程式等の計算技能、空間図形の感覚、関数の式やグラフ、確率等の基礎的・基本的な内容の定着が図られてきているととらえております。
- ② 「数学の授業がよく分かる」と回答した生徒の割合も増加してきております。全国の状況と比較しても 10% 以上高い数値となっております。
- ① 記述式の無解答率が 3 割を超え、課題としてとらえております。事柄の特徴を説明したり、成り立つ理由を説明したりするなど、自分の考えを表現する学習を授業の中に取り入れ、改善を図る必要があります。
- ② 数学的な見方や考え方に関する問題についても、正答率が低くなっております。生徒が自分で考えたり、グループで意見交換をする場の設定をしたりするなどの、授業改善を図ります。

【次年度への取組】 数学の授業において、生徒が自分で考え、自分の考えを書いたり発言したりする機会を増やし、記述式の問題の平均無解答率を 5% 以上減らすこと、数学的な見方や考え方の問題の平均正答率を 5% 以上改善することをめざします。

(3) 質問紙調査

- ① 物事をやり遂げて、うれしかったことがある。92.1% (+3.8%)
- ② 将来の夢や目標を持っている。
71.1% (+3.0%)

- ① 難しいことでも、失敗を恐れず挑戦する 63.1% (-1.9%)
- ② 自分には、よいところがある
67.4% (-2.8%)

「自尊感情」

- ① 「物事をやり遂げて、うれしかった」と回答した割合は 9 割を超えております。行事等の生徒主体の活動の成果と考えられ引き続き取り組んでまいります。
- ①② 「失敗を恐れずに挑戦する」といった意識や、「自分にはよいところがある」といった自分への自信については、昨年度よりも数値が下がっており、全国の状況と比較しても低い状況です。生徒が自信を持って生き抜いていく力を育てるような指導の充実に努めます。

「将来に関する意識」

- ② 「将来の夢や目標を持っている」と回答した割合は 7 割を超えております。生徒が夢や目標を持ち続けられるよう、キャリア教育の充実にさらに努めます。

【次年度への取組】・授業や行事等の機会を通して、困難に挑戦する場を設け、挑戦することの意義や自分への自信を感じ、①②の数値が今年度よりも 5% 向上することをめざします。

教育委員会より

〇〇中学校では、行事や部活動などにおいて、生徒の活躍の場を増やし、自己有用感を高める取組を行っている様子を拝見しております。今年度は「授業力向上」についての研究に全職員で取り組んでおり、「わかる授業」を推進することで、昨年度より、授業がわかる生徒が増え、成果として表れています。

〇〇区・教育担当

Ⅱ（４）結果報告書 調査毎の分析

平成 26 年 10 月〇日

保護者の皆様

川崎市立〇〇小学校
校長 〇〇 〇〇

平成 26 年度 全国学力・学習状況調査の結果概要と 今後の〇〇小学校における学力向上の取組について

日頃より本校の教育活動に御理解と御協力をいただき誠にありがとうございます。

さて、今年度 4 月に 6 年生を対象に実施した全国学力・学習状況調査の本校の調査結果及び今後の本校の取組について報告いたします。

調査結果を踏まえながら、児童一人ひとりの学習改善や主体的な学習態度の育成等につなげてまいりたいと考えております。

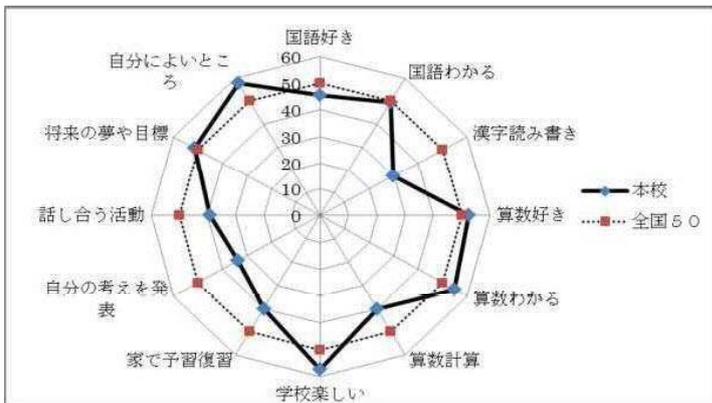
なお、本調査によって測定できるのは学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面であることが調査の実施要領にも示されております。したがって、本資料につきましては、本校の教育活動の成果と課題を把握するための一つの指標とお考えいただきたいと存じます。

地域・保護者の皆様には、本調査の趣旨をご理解いただきますようお願いいたします。

全国学力・学習状況調査の概要（文部科学省資料より）

- | | |
|--------|--|
| ○調査実施日 | 平成 26 年 4 月 22 日（火） |
| ○調査対象 | 国・公・私立学校の小学校第 6 学年、原則として全児童 |
| ○調査内容 | ①教科に関する調査（国語、算数）
・主として「知識」に関する問題（A）
・主として「活用」に関する問題（B）
②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査 |

1 本校の調査結果の全体的な概要



*全国結果を 50 とし、それに対する本校の結果を表わしています。

○教科に対する意識「好き」「分かる」については、算数は全国より、よい状況といえますが、国語は課題があります。

○「自分によいところがある」「将来の夢や目標がある」といった自尊感情や、児童が「学校が楽しい」といった学校生活については、よい状況といえます。
○漢字の読み書きや計算等、基本的な知識・技能の習得に課題が見られ、改善の必要があります。

○授業の中で「話し合う活動」や「考えを発表する機会」などを取り入れることについては課題があり、改善していく必要があります。

2 教科に関する調査結果の概要 〈本校平均正答〈回答〉率〉

よい状況と考えられる内容（☆） 指導・改善が必要と考えられる内容（★）

国語 A ★漢字を書く問題について、課題があります。（「焼く」〈47.1%〉、「停車する」、〈15.7%〉、「設ける」〈29.5%〉）

☆ことわざの意味の理解、接続語の働きについては、比較的良好な状況です。（「急がば回れ」〈85.4%〉、接続語の働き〈75.1%〉）

国語B ★「活用」に関する問題では無解答率が20%を超える問題が3問あり、課題といえます。
国語への関心等 ★国語について、「授業がよく分かる」の回答状況は、〈32.6%〉で全国と比較してほぼ同程度ですが、「好き」、「大切」の回答状況は〈17.4%〉、〈50.0%〉と課題があります。

算数A ☆数と計算〈68.1%〉、数量関係〈77.4%〉については比較的良好な状況です。

★量と測定〈55.8%〉、図形〈55.3%〉については課題があります。

算数B ☆図形に関する問題については比較的良好な状況です〈72.4%〉

★記述式の問題の無解答率が5問平均〈25.0%〉で全国と比較して大きく上回っており、課題ととらえております

算数への関心等 ☆算数について「好き」〈41.1%〉、「大切」〈75.0%〉、「授業がよく分かる」〈50.0%〉と回答した児童の割合がいずれも全国よりよい状況です。

3 質問紙調査結果〈本校の回答率〉

言語活動 ★普段の授業で、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると回答した割合は26.8%、自分の考えを発表する機会が与えられていると回答した割合は29.7%、で課題があります。

自尊感情 ☆自分にはよいところがあると回答した児童の割合は42.3%、将来の夢や目標を持っていると回答した割合は73.5%でいずれも全国より、よい状況です。

規範意識 ★人の役に立つ人間になりたいと回答した児童の割合は67.2%、学校のきまりを守っていると回答した割合は34.0%で課題があります。

学習習慣 ★家で学校の授業の予習、復習をしていると回答した割合は、7.7%、9.5%でいずれも改善の必要があります。

生活習慣 ★朝食を毎日食べている、毎日同じくらいの時刻に寝ている、起きていると回答した割合はそれぞれ79.6%、25.0%、51.0%で課題がある状況です。

学校生活 ☆学校で友達に会うのは楽しいと回答した割合は89.2%、学校に行くのが楽しいと回答した割合は59.4%でいずれも全国より、よい状況です。

4 今後の取組

（1）教科について

国語 教科の調査や国語に対する意識の状況ともに課題があり、改善が必要です。子どもの学習意欲を高める授業づくりに取り組み、「分かる」「好き」「大切」という意識において、今年度よりも5%以上向上できるように努めます。

算数 学習意欲の面では、比較的良好な状況といえます。授業では、事柄や方法、理由などを説明する学習を取り入れ、算数Bの記述問題の無解答率を今年度よりも5%以上改善するよう努めます。

※授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を示す活動や授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れて、授業改善に努めます。

（2）児童生徒質問紙について

魅力的な学校づくりに引き続き努め、学校に行くことが楽しいと感じている児童をさらに増やします。子どもたちが主体となった授業づくりに努め、「授業で話し合う活動がよく行われている」「自分の考えを発表する機会が与えられている」と回答する児童の割合を5%以上向上させることをめざします。

教育委員会より

〇〇小学校では、児童が楽しく学校に通えるよう、わかりやすい授業づくりと教員と児童の信頼できる関係の構築に努めており、授業中に、わからないところを教員に聞きながら課題を解決している児童の姿を見てきました。また、現在取り組んでいる算数の授業研究により、職員の授業作りの工夫が、子どもたちの算数への関心の高さにつながっています。 〇〇区・教育担当

II (5) 結果報告書 調査毎の分析 (取組重視)

平成 26 年 10 月〇日

保護者の皆様

川崎市立〇〇小学校
校長 〇〇 〇〇

平成 26 年度 全国学力・学習状況調査の結果の内容と 〇〇小学校における今後の取組について

日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

本年 4 月 22 日に 6 年生を対象に実施されました全国学力・学習状況調査の本校の結果の内容を学校づくりを生かす視点から分析を行い、今後の学力向上の取組について報告いたします。

なお、本調査によって測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面であることが調査の実施要領にも示されております。したがって、本資料につきましては、本校の教育活動の成果と課題を把握するための一つの指標とお考えいただきたいと存じます。

地域・保護者の皆様には、本調査の趣旨をご理解いただき、ご支援とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

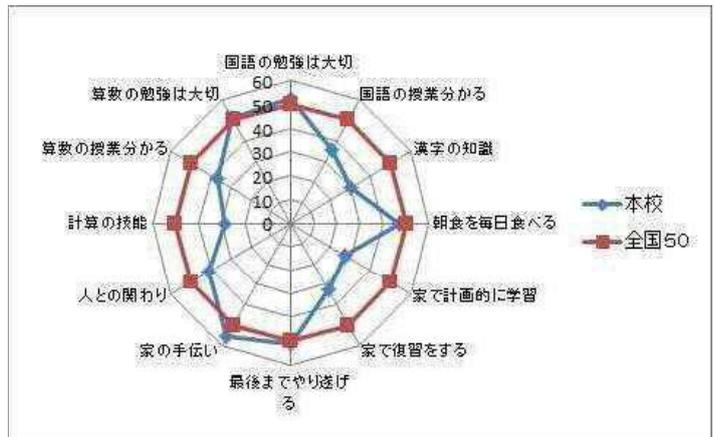
1. 調査結果の内容

※○は概ね満足できる状況と考えられる内容、●は改善を必要とする状況と考えられる内容

※本資料で示している数値は、質問紙調査の各設問の「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計

(1) 学習についての内容

- 「国語の勉強は大切だと思いますか」
94.3%
- 「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出るときに役に立つと思いますか」
88.5%
- 「算数の勉強は大切だと思いますか」
94.1%
- 「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出るときに役に立つと思いますか」
88.6%



*全国結果を50とし、それに対する本校の結果を表わしています。

- 「家で、学校の復習をしていますか」 34.1%
- 「国語の授業の内容はよく分かりますか」 64.8%
- 「算数の授業の内容はよく分かりますか」 66.8%
- 漢字を正しく読んだり、書いたりする設問についての平均正答率 47.5%
- ことわざや慣用語の意味と使い方の理解に関する設問についての平均正答率 67.5%
- 計算の技能の習得に関する設問の平均正答率 63.8%

国語や算数への興味・関心についての設問に対して、肯定的に答える児童が多く、学習することを大切にとらえ、学習への意識が高い児童が多い状況です。しかしながら、基礎的・基本的な知識・技能の定着が不十分であるために、授業の内容が分からない、と答える児童がいる状況です。

(2) 自分や生活習慣についての内容

- 「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」 96.0%
- 「家の手伝いをしていますか」 86.5%
- 「朝食を毎日食べていますか」などの生活習慣に関連する設問に対して、マイナスの傾向で答える児童の割合が、全国に比べて高い傾向にあります。
- 「学校の決まりを守っていますか」、「挨拶をしていますか」、「人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか」という人との関わりに関連する設問に対して、「当てはまる」と答える児童が全国に比べて低い傾向にあります。

自己肯定感が高く、家庭でのコミュニケーションを大切にし、お手伝いなどを行っている児童の割合は多くなっています。しかしながら、基本的な生活習慣が身に付いておらず、規範意識が低い児童の割合は多くなっています。

2. 今後の学力向上に向けた取組について

(1) 全児童が「分かった」と実感できる授業を目指して

①基礎的・基本的な知識・技能の定着に向けた取組

- ・朝の帯タイムに、漢字チャレンジタイムと計算チャレンジタイムを位置づけて全校一斉に取り組み、繰り返し学習することで基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ります。
- ・給食の準備時間や昼休み、放課後等の時間を利用して、少人数担当教諭が基礎的・基本的な知識・技能の定着に向け学習をサポートします。
- ・家庭学習を計画的に行い、基礎的・基本的な知識・技能の定着につながるように「家庭学習スタイル」を作成しました。計画を立て、学習に取り組み、自己評価し提出するようになっております。学校では提出物に目を通し、取組状況に合わせて褒めたり励ましたりしていきますので、ご家庭でもお子さんと一緒に計画を立てたり、アドバイス等をしていただければ幸いです。

***以上の取組を推進することにより、漢字に関する正答率 50%を目指します。**

②子どもたちが「楽しい」「分かった」と実感できるような授業改善に向けた取組

- ・「子どもたちが自ら考える」「自分の考えを表現する」「友だちと考えを出し合い、学び合う」授業を目指して、研修や授業研究を通して取り組んでまいります。

全国学力・学習状況調査報告書「クロス集計」では、学力は学習意欲、自尊感情、規範意識、生活習慣や人とのかかわりに対する意識と関連があることが示されています。引き続き、楽しい学校づくりに努め、様々な活動を通して自尊感情や規範意識が高まるような指導に努めます。また、保護者や地域の方との連携を取りながら、生活習慣や人とのかかわりに対する意識の改善を図ってまいります。

***以上の取組を推進することにより、「授業が分かる」と答える児童を 70%にすることを目指します。**

教育委員会より

日ごろより、〇〇小学校では、学校行事などの運営に児童の自主活動を取り入れており、児童が生き生きと活動する姿を拝見しております。学校や学年の行事に積極的に取り組むことが、子どもたちの成功体験へとつながり、自尊感情がはぐくまれているものと考えております。

〇〇区・教育担当

Ⅱ（６）結果報告書 学校教育目標等に即した分析（授業改善重視）

平成 26 年 10 月〇日

保護者の皆様

川崎市立〇〇中学校

校長 〇〇 〇〇

平成 26 年度 全国学力・学習状況調査の結果の概要と 〇〇中学校における今後の取組について

日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

本年 4 月 22 日に 3 年生を対象に実施されました全国学力・学習状況調査の調査結果につきまして、本校の学校教育目標ならびに学校経営方針を踏まえ、学校づくりに生かす視点から分析を行い、今後の取組について報告いたします。

なお、本調査によって測定できるのは学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面であることが調査の実施要領にも示されております。したがって、本資料は、本校の教育活動の成果と課題を把握するための一つの指標とお考えいただきたいと存じます。

地域・保護者の皆様には、本調査の趣旨をご理解いただき、ご支援ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

1. 調査結果の概要

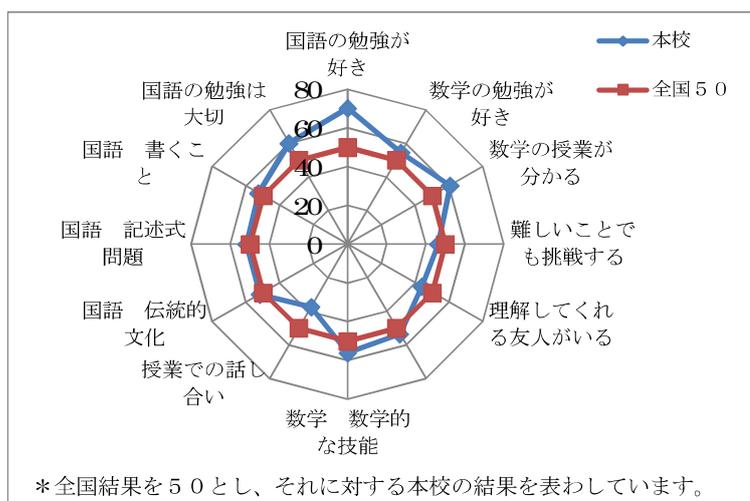
生徒質問紙調査から、「最後まであきらめずに解答を書こうとした」、「国語や数学の勉強が大切である」などの設問に対して、肯定的な回答をする生徒が多く、本校の多くの生徒が学習に意欲を持って取り組もうとしていることが分かります。これは、本校のめざす生徒像である『意欲的に学び、豊かな心と正しい判断力・実践力を身につけた生徒』を実現しているものと考えます。

また、国語では、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」などについて、数学では「数と式」、「図形」についての正答率が高く、基礎的・基本的な知識・技能が身に付いている生徒が多いことが分かります。これは、本校の経営目標の一つである『確かな学力を身に付ける教育の推進』が効果を上げていることがうかがえます。

2. 学校教育目標等の実現に向けた調査結果を生かした今後の取組

※○は概ね満足できる状況と考えられる内容、●は改善を必要とする状況と考えられる内容

※本資料で示している数値は、質問紙調査の各設問の「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計



(1) 学校教育目標「自ら学び、考え、進んで行動する人」の実現について

<生徒質問紙調査の状況>

- 「教科が好きである」、「勉強が大切である」などの「学習意欲」に関する設問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合の平均は **75.3%**であり、良い状況ととらえております。
- 「国語の授業の内容がよく分かる」、「数学の授業の内容がよく分かる」の設問に対して肯定的に答えた生徒はそれぞれ、**84.1%**、**83%**であり、どちらも全国よりもよい状況にあります。
- 「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦する」と回答した生徒は **61.1%**で、全国に比較して課題がある状況です。
- 「自分の考えや気持ちを理解してくれる友人がいますか」という設問に対して、**81%**の生徒が肯定的な回答をしていますが、全国に比較して課題がある状況です。

<分析と今後の取組>

「授業が分かる」と感じ、意欲的に学習に向かっている生徒が多いことがうかがえます。今後、生徒が豊かな人間関係を築き、一層、自信を持って授業に取り組むことができるよう、自己有用感を高めていきたいと考えています。

また、生徒がより意欲的に学習にのぞめるよう授業改善を推進し、「学習意欲」に関する設問の平均数値が **75%**になるよう、めざしていきたいと考えています。

(2) 学校経営目標「確かな学力を身につける教育の推進」について

<教科調査の状況>

- 国語 ○「自分の考えを書く」「説明する」などの記述式問題の正答率は、**50.1%**ですが、全国より、よい状況にあります。
 - 国語の「漢字の楷書と行書の違いを理解して書くこと」や「歴史的かなづかい」に関する問題については、課題がある状況です。
- 数学 ○数学の活用の問題では、「数と式」の領域で平均正答率が **46.3%**で、全国より良い状況にあります。
 - 数学 A「主として知識」の正答率 **30%**以下の生徒が約 **20%**おり、課題がある状況です。

<質問紙調査の内容>

- 「授業の中で、最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていますか」という質問に対して、**57.5%**の生徒が肯定的な回答をしており、全国より、よい状況にあります。
- 「授業で話し合う活動をよく行っている」、「調べる活動を行っている」という質問に対して否定的に答える生徒の割合は **43.5%**であり、全国に比べて課題のある状況です。

<分析と今後の取組>

話し合い活動を授業に取り入れて言語活動の充実を図り、「わかる授業」を推進することで、数学 A「主として知識」の正答率 **30%**以下の生徒を **10%**にしていきたいと考えています。

教育委員会より

日ごろより、〇〇中学校の生徒が学級活動や行事などに自主的に取り組み、積極的に授業に取り組んでいる様子を拝見しております。授業の導入や課題の提示方法を工夫するなどして生徒の関心意欲を高め、一人ひとりに応じた学習支援が学力向上につながっていると考えております。

〇〇区・教育担当

Ⅲ 個人票の取扱いについて

児童生徒一人一人の学力向上につながるよう、調査結果をもとに学習方法の改善等について児童生徒・保護者と共通理解を図るために活用する。

個人票のイメージと学力向上につなげるアドバイスのポイント

全体的な出題の意図が書かれています。国語 A は基礎・基本的な問題です。

正答数ごとの児童の割合の全国状況です。自分の位置を確認できます。

全国学力・学習状況調査【小学校】
国語 A

●出題内容
国語では、「読むこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、「伝統的な童話文と国語の特質に関する事項」に関する内容について学習します。
国語 A は、基礎的・基本的な問題です。学習した内容であるので、しっかりと身に付けるようにしましょう。

●全国の状況（正答数ごとの児童の割合）

問題番号	問題内容	正答数	正答率	結果	正答率
1	新しいじゆんを 読み取る	4-5	★	解答	○ 89.4
2	漢字を調べる	5-1	★	解答	× 92.2
3	参加することを 知る	5	★	解答	○ 95.3
4	例文で よいこと にみえてもらう	3-3	★	解答	○ 83.3
5	漢字を書く	2-3	★	解答	○ 90.3
6	漢字から よいこと がのびる	5	★	解答	○ 90.3
7	よいこと を書く	5	★	解答	○ 90.3
8	読みの内容を聞きながら書いた文章のねらいを適切に説明したものを選ぶ	3-4	★	選択	○ 85.5
9	漢字の意味付けながら読み、理解した語の中から適切な内容を取り出して書く	5-6	★	解答	× 92.5
10	漢字の意味付けながら読み、理解した語の中から漢字の読みを聞き出して書く	5-6	★	解答	○ 80.6
11	3つの命題式の整理の仕方として適切なものをそれぞれ選ぶ	3-4	★	選択	○ 73.6
12	資料裏表を読み、資料に応じて中心となる内容を取り出して書く	3-4	★	解答	× 91.2
13	資料裏表を読み、資料に応じて中心となる内容を取り出して書く	3-4	★	解答	○ 92.2
14	制作した物語の語り手が等分している人物として適切なものを選ぶ	5-6	★	選択	○ 72.1
15	新聞の報道記事のリーディングに必要な事項を整理し、一文にまとめて書く	5-6	★	解答	○ 43.7
16	日常生活で使われている慣用語を高め、それらの意味を適切にとらえる	3-4	★	選択	○ 79.9
17	漢字（平）の正しい筆順を適切にとらえる	3	★	解答	○ 82.9
18	漢字（平）の正しい筆順を適切にとらえる	1	★	解答	× 81.6

各問の内容が書かれています。自分の苦手な部分が把握できます。

各問の結果（○正答、×誤答、—無解答）が示されています。

全国の正答率です。数値が低いほど、難しかった問題ともいえます。

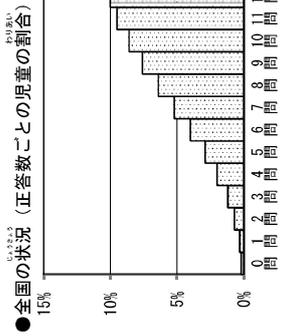
正答数の見方
*問題の形式ごとの正答数、問題の領域ごとの正答数が示されています。自分の得意分野や苦手分野が把握できます。

平成25年度
全国学力・学習状況調査【小学校】
 調査結果

学校名 _____ 組 _____ 番号 _____ 個人番号 _____ 氏名 _____

国語A

●出題内容
 国語では、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に関する内容について学習します。国語Aは、基礎的・基本的な問題です。学習した内容であるので、しっかりと身に付けるようにしましょう。



問題番号	問題の内容	学習学年	国語の特性に関する事項	読むこと	書くこと	問題形式	結果	全国の正答率
1	(1) 乗り物の差を買う	5・6	★			短答	98.9	
	(2) 漢字を読む	5・6	★			短答	79.4	
	(3) めずらしい産物を 選集 する	5・6	★			短答	65.0	
2	(1) 魚を せく	5・6	★			短答	72.6	
	(2) バスが 正しい した	5・6	★			短答	47.1	
	(3) 委員会を もう ける	5・6	★			短答	53.7	
3	ことわざの意味として適切なものを選ぶ	3・4	★			選択	71.3	
	急がば回れ	3・4	★			選択	86.2	
4	文のはじめの5文字を丸で囲む	1・2	★			短答	36.9	
	接続語を使って1文を2文に分けて書く	5・6	★	★		短答	23.6	
5	「だから」と同じような動きをすする接続語として適切なものを選ぶ	3・4	★			選択	83.4	
	「言葉の使い方」に関する資料を読み取り、全体から分かったことを書く	5・6	★	★		短答	72.6	
6	「言葉の使い方」に関する資料を読み取り、編集の仕方の特徴をまとめたものとして適切なものを選ぶ	5・6	★	★		短答	71.5	
	マナーに関する広告を読み取り、編集の仕方の特徴をまとめたものとして適切なものを選ぶ	5・6	★	★		記述	45.1	
7	炎火とその周りの景色との関係を表したのとして適切なものを選ぶ	5・6	★	★		選択	61.3	
	選手宣言文の表現の工夫と その効果を説明したものとして適切なものを選ぶ	3・4	★	★		選択	71.9	
7	選手宣言文の表現の工夫と その効果を説明したものとして適切なものを選ぶ	5・6	★	★		選択	47.7	
7	選手宣言文の表現の工夫と その効果を説明したものとして適切なものを選ぶ	5・6	★	★		選択	43.5	

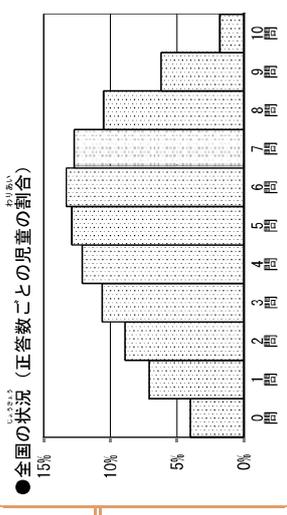
正答数 選択 7問 短答 10問 記述 1問 全体 1.8問
 話すこと・聞くこと 1問 書くこと 4問 読むこと 3問 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 15問

○：正答 x：誤答 ー：無解答

※表中の学習学年とは、問題に関連する学習指導要領の内容が示されている学年を教したものです。

国語B

●出題内容
 国語Bは、これまで身に付けた基礎的・基本的な内容を活用し、相手や目的、意図、場面や状況などに応じて、話したり聞いたり、書いたり、読んだりする問題です。国語科で学習した内容を国語科以外の学習や日常生活の中でも活用できるようにしましょう。



問題番号	問題の内容	国語の特性に関する事項	読むこと	書くこと	問題形式	結果	全国の正答率
1	一 助言の際に6年生がとった対応の説明として適切なものを選ぶ		★		選択	78.9	
	二 6年生の助言の仕方の説明として適切なものをそれぞれ選ぶ		★		選択	48.8	
	三 川本さんの助言についての説明を書く		★	★	記述	67.3	
2	一 「打ち上げ花火の歴史」という見出しに合わせて必要な内容を書き加える			★	短答	64.0	
	二 【ずかんの一部】の中から花火師の苦労が具体的に書かれている内容を引用して書く			★	短答	26.5	
	三 複数の内容を関係付けた上で、自分の考えを具体的に書く			★	記述	17.9	
3	一 【本間さんが書いたすいせん文】において推薦している対象を書く				短答	50.0	
	二 【花田さんが書いたすいせん文】において推薦している理由を書く				短答	45.4	
	三 【本間さんが書いたすいせん文】において推薦している理由を書く				短答	44.8	
三	二人の推薦文を比べて読み、それぞれの読み方として適切なものを選ぶ				選択	52.1	

正答数 選択 3問 短答 5問 記述 2問 全体 1.0問
 話すこと・聞くこと 3問 書くこと 3問 読むこと 4問 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 10問

○：正答 x：誤答 ー：無解答

IV わかる授業の取組

1 平成25年度児童生徒質問紙「授業がよく分かりますか」の本市および全国の調査結果

	小学校			中学校			
	1	2	合計		1	2	合計
国語 川崎	34.6	45.6	80.2	国語 川崎	22.0	51.2	73.2
国語 全国	33.3	46.6	79.9	国語 全国	22.3	49.6	71.9
算数 川崎	45.5	33.4	78.9	数学 川崎	30.8	38.5	69.3
算数 全国	45.2	35.0	80.2	数学 全国	31.7	38.8	70.5

(1当てはまる 2どちらかといえば当てはまる)

2 各校での分析の仕方

全国と川崎市の結果から各校の分析を下記のように設定

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計が

●小学校

85%以上—よい状況 75～85%—全国の状況と同程度 75%未満—改善を要する状況

●中学校

75%以上—よい状況 65～75%—全国の状況と同程度 65%未満—改善を要する状況

3 児童生徒が「分かる」を実感できる授業づくりに向けて

児童生徒に身に付けさせたい力・・・着目していく児童生徒質問紙調査の設問

国語では

- 目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりすることができる。
- 意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫することができる。
- 自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書くことができる。
- 文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読むことができる。

算数・数学では

- 解き方が分からないとき、諦めずにいろいろな方法を考えることができる。
- 学習したことを普段の生活の中で活用できないかを考えることができる。
- 問題を解くとき、もっと簡単に説く方法はないか考えることができる。
- 公式や決まりを習うとき、そのわけや根拠を理解しようとすることができる。
- 問題の解き方や考え方が分かるようにノートにまとめることができる。

① これらの力を身に付けるために学校として取り組むこと・・・着目していく学校質問紙調査の設問

国語に関する質問から

- 目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業
- 書く習慣を付ける授業
- さまざまな文章を読む習慣を付ける授業
- 漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業

算数・数学に関する質問から

- 実生活における事象との関連を図った授業
- 計算問題などの反復練習をする授業

学校全体で取り組める内容として・・・着目していく学校質問紙調査の設問

- 授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れる。
- 授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れる。
- 「朝の読書」など一斉読書の時間を設定する。
- 学校図書館を活用した授業を計画的に実施する
- 放課後・土曜日・長期休業等を利用した補充的な学習サポートを実施する。
- 本やインターネットを使って調べる活動を単元の学習の中に位置づける。
- お互いが自分の考えを発表する機会を授業に位置づける。
- 学級の友達との間で話し合う活動を日常的に行う。
- 400字詰め原稿用紙 2～3枚の感想文や説明文を書くことに慣れさせる。
- 自分の考えを他の人に説明したり文章に書いたりすることに慣れさせる。

4 どのように分析し目標設定をするか

○「授業の内容が分かりますか」に対する回答状況が比較的好かった場合

- ① 「身に付けさせたい力」で比較的低い項目があれば、それを取り上げて
→「分かると回答した割合が●%と比較的良好な状況にあります。子ども達がより一層自信をもって学習に取り組めるように○○の力を伸ばすように授業改善に取り組みます。」
- ② 「学校として取り組むこと」で校内研究等の重点を置いている取組に近い項目があれば
→「分かると回答した割合が●%と比較的良好な状況にあります。～をテーマに取り組んできた校内研究の成果が現れてきたものと受け止めています。今後も一人でも多くの子どもが『授業の内容が分かる』と回答できるように、(研究主題等に触れながら)一人一人に目を向けたきめの細かい指導を心がけてまいります。」
- ③回答状況は比較的好かったが、学校としてさらに伸ばしたいところがある場合は
→「分かると回答した割合が●%と比較的良好な状況がありますが、教職員は○○の力が伸びてくるとより一層、思考力や表現力を伸ばすことができると分析しています。今後は～。」

▲「授業の内容が分かりますか」に対する回答状況が比較的好くなかった場合

- ① 「身に付けさせたい力」で課題となっている項目を1～2取り上げて
→「分かると回答した割合が●%であり、学校として改善を図るべき課題だととらえています。一人一人が分かる楽しさを味わいながら学習に取り組むことが意欲の向上にもつながると考えております。○○の力や○○の力をしっかりと身に付けられるような授業を工夫していきたいと考えています。」
- ② 「学校として取り組むこと」で課題となっている項目を1～2取り上げて
→「分かると回答した割合が●%であり、学校として改善を図るべき課題だととらえています。一人一人が自分の考えをもち、意欲的に学習に取り組むことを目指して、授業の中に□□の活動をしっかりと位置づけ、○○の力を伸ばすように授業を工夫してまいります。」

※ここで示した「○○の力」は、児童生徒質問紙の内容から取り上げた「身に付けさせたい力」の項目の中で調査結果から課題が見られる項目や、日常の教育活動を通して教員が課題と感じていることを取り上げることを想定している。

補足 は児童生徒質問紙の設問。この設問に対する回答状況を分析し、課題が認められれば、◎で示した授業改善策を今後の取組として示すことが考えられる

算数・数学の問題の解き方が分からないとき、諦めずにいろいろな方法を考える

◎児童生徒の様々な考えを引き出したり思考を深めたりするような発問や指導を工夫する。

普通の授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思う

◎児童生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進める。

算数・数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている

◎学習方法(適切にノートをとる、テストの間違いを振り返って学習するなど)に関する指導を行う。

普通の授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思う

◎学級全体で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを工夫して授業に取り入れる。

普通の授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思う

◎授業の中に学級やグループで話し合う活動を日常的に取り入れる。

普通の授業では、本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っていると思う

◎本やインターネットなどを使った資料の調べ方が身に付くように指導を工夫する。

普通の授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思う

◎単元の学習の中に資料を使って発表する機会を位置づける。

400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しい

学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しい

◎自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書く活動を日常的に取り入れる。

※調査結果を分析する際に、教員の見立てと児童生徒の回答状況に開きが見られる場合

○要因として、考えられるのは

- ①調査の回答者と実際に児童生徒を指導している教員との間に認識のずれがある場合
(学校質問紙に校長・他教科の担当者・学年主任(教科主任)等が代表して回答している)
- ②教員は取り組んでいるが、児童生徒には認識されていない場合
(時間をかければ伝わるものか、取組の成果を児童生徒が実感できているかを検討する)
- ③児童生徒は努力していると考えているが、教員(回答者)には認識されていない場合
(調査結果の分析を機に、児童生徒の見取り方が適切かどうかを検討する)

※ 調査結果の分析に当たっては、結果の数字だけを取り上げるのではなく、なぜこのような結果になったのか、児童生徒はどのような思いで設問に解答していたのかについて日常の活動への取り組み状況等も考慮しながら検討することで、児童生徒を共感的に理解することにつながります。

このような分析を全教職員で共有し、それぞれの教科・学年に応じた授業改善への取組を具体的に・組織的に行うことが、学校全体で“わかる授業”づくりに取り組むこととなります。

参考 川崎市学習状況調査について

1 調査の目的

全市的な規模で児童生徒の学習状況を調査することにより、学習指導上の課題を明らかにする。その結果を、各学校においては、今後の学習指導法の改善や教育課程編成の工夫等、児童生徒の基礎学力の向上に役立てる。

2 調査の内容等

- (1) 調査対象 小学校 5年生 (平成 25 年度 調査対象人数 約 11,400 人)
中学校 2年生 (平成 25 年度 調査対象人数 約 8,800 人)
- (2) 調査内容 小学校 国語、算数の調査、生活や学習についてのアンケート
中学校 国語、社会、数学、理科、英語の調査、
生活や学習についてのアンケート
- (3) 実施日 小学校 5月上旬・・・平成 26 年度 5月 13日(火)
中学校 11月上旬・・・平成 26 年度 11月 11日(火)
- (4) 各学校のデータ及び個人票の提供 小学校 夏休み前(7月中旬)
中学校 冬休み前(12月下旬)

3 学習状況調査報告書について

各学校の日頃の指導の改善に生かすよう、報告書を作成し各学校に配布する。

教科の調査分析

アンケート分析

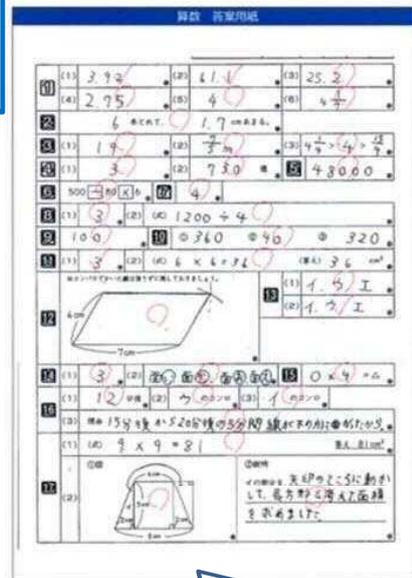
各問ごとの分析と授業改善の視点を提示。

小問別正誤表

各小問の正誤状況は「○」正答 「●」誤答 「-」無回答 を表しています。

大問	小問	問題の内容	領域	観点	正誤	川崎市正答率 (%)
1	(1)	小数第二位までの小数の加法ができる	A	②	●	73.1
	(2)	小数第二位までの小数の減法ができる	A	②	●	59.5
	(3)	(小数) × (1けた) の乗法ができる	A	②	○	86.4
	(4)	(整数) ÷ (整数) のわり進む除法ができる	A	②	○	64.4
	(5)	四則混合計算ができる	D		○	81.7
	(6)	帯分数を含む同分母分数の加法ができる	A	②	○	73.0

川崎市の状況がひと目で分かりやすくなっている。



個人票には、採点された本人の答案用紙がスキャンされ、状況を確認できる。



「領域ごと」「観点ごと」の自分の正答数と市全体の状況とを比べることができる。

川崎市状況と個人の状況が比較しやすい。

領域別分析

領域名	あなたの正答数	小問数	平均正答数	川崎市平均正答率	正答率
A 数と計算	12	14	9.4	73.1%	73.1%
B 量と測定	5	6	3.6	59.5%	59.5%
C 図形	4	5	3.3	81.7%	81.7%
D 数量関係	9	9	5.8	73.0%	73.0%

意識調査

■ 意識調査

質問 選択肢	回答率
学校生活は、楽しいですか。	
楽しい	61.7
どちらかといえば、楽しい	31.6
どちらかといえば、楽しくない	4.8
楽しくない	1.8
無回答	0.1
勉強をすることは、大切なことだと思いますか。	
大切だ	78.6
どちらかといえば、大切だ	19.5
どちらかといえば、大切ではない	1.3
大切ではない	0.5
無回答	0.1
勉強をする一番の理由は何ですか。	
わかると楽しいから	21.9
受験に役に立つから	11.5
将来の仕事に役に立つから	42.2
生活するのに役に立つから	19.0
ほめてもらえるから	2.0
家の人やまわりの人にいわれるから	2.8
無回答	0.6
学校のある日、家で1日どのくらい勉強しますか。	
3時間以上	8.4
2時間以上、3時間より少ない	11.5
1時間以上、2時間より少ない	24.3
30分以上、1時間より少ない	31.2
30分未満	19.6
まったくしない	4.3
無回答	0.6
ふだん、家でしている勉強は、どれに近いですか。	
宿題のほかにも毎日勉強する	40.1
宿題のほかにもときどき勉強する	40.5
宿題だけ勉強する	16.2
宿題があってもあまり勉強しない	2.5
無回答	0.8

質問 選択肢	回答率
学校がある日の、睡眠時間はどのくらいですか。	
10時間以上	11.4
9時間以上、10時間より少ない	33.4
8時間以上、9時間より少ない	30.3
7時間以上、8時間より少ない	14.4
6時間以上、7時間より少ない	6.5
6時間より少ない	2.6
無回答	1.3
毎日、朝食を食べますか。	
必ず食べる	82.1
たいてい食べる	13.6
食べないことが多い	3.1
食べない	0.6
無回答	0.6
学校に持っていくものは、前日にきちんと用意しますか。	
用意する	57.9
どちらかといえば、用意する	31.0
どちらかといえば、用意しない	8.0
用意しない	2.9
無回答	0.2
学校のある日、家でどのくらいテレビやビデオを見たり、ゲーム機で遊んだりしていますか。	
3時間以上	19.2
2時間以上、3時間より少ない	19.3
1時間以上、2時間より少ない	26.5
30分以上、1時間より少ない	18.7
30分未満	10.9
まったくしない	5.0
無回答	0.4
月に何きつぐらい本(マンガ・雑誌をのぞく)を読みますか。	
川崎市平均	5.7
あなたの回答	5

各設問に対し、川崎市全体の解答の割合を%で示しています。
あなたの解答は網かけ部分に含まれています。

「生活や学習のアンケート」については、本人が回答した部分に色がついている。

この個人票をもとに、日頃の学習について振り返り、学習方法の改善等について、教員、児童生徒、保護者で考えていく。

平成 25 年度 全国学力・学習状況調査結果の概要について

－ 川崎市の児童生徒の学習・生活の状況 －

平成 25 年 4 月 24 日（水）に小学校 6 年生、中学校 3 年生を対象に実施した全国学力・学習状況調査の川崎市の調査結果がまとまりましたので、本市の児童生徒の学習・生活状況の概要を示します。申すまでもなく、この調査により測定できる学力は特定の一部であり、学校における教育活動の成果の一側面にすぎません。したがって、調査結果は、全国の状況を参考にしながら、本市の教育施策の成果と課題を把握するための一つの指標と考えています。また、学習や生活の実態を踏まえながら、各学校における教育課程や学習指導方法の充実・改善、児童生徒一人一人の学習改善や主体的な学習態度の育成等につなげてまいります。

◎川崎市の教科別調査結果

1 教科に関する調査の平均正答率

		小学校調査				中学校調査			
		国 語		算 数		国 語		数 学	
		A	B	A	B	A	B	A	B
平成25年度 平均正答率 (公立)	川崎市	62.7%	52.5%	78.1%	61.3%	77.2%	70.4%	64.4%	42.7%
	全 国	62.7%	49.4%	77.2%	58.4%	76.4%	67.4%	63.7%	41.5%

* A問題：主として「知識」に関する問題、B問題：主として「活用」に関する問題

2 全体の傾向

本市においては、「上記 1」の 8 項目（各教科 A、B 問題）のいずれの平均正答率も全国に対して ± 5 ポイントの範囲内にある。これは文部科学省が有意差の認められないとする範囲内であるので、本市の結果は全国とほぼ同程度の結果であるといえる。

◎各教科の概要（◇：よい状況と考えられる点 ◆：課題のある点）

【小学校 国語】

本市の小学校国語の全体的な結果は、全国とほぼ同様、もしくはやや良好な状況であるといえる。全国の結果と同様、A問題に比べてB問題の正答率が 10 ポイント程度低くなっている。目的や意図に応じて必要な内容を引用したり関係付けたりして書くこと、自他の読み方を交流し効果的な読み方を工夫することなどが課題である。

話すこと・聞くこと

◇相手の立場や状況を感じ取って聞くこと

◆スピーチの表現を工夫すること

書くこと

◆文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くこと

◆目的や意図に応じ、複数の内容を関係付けながら自分の考えを具体的に書くこと

読むこと

◆俳句の情景を捉えること

◆ 2 人の推薦文を比べて読み、推薦している対象や理由を捉えること

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

◇ことわざの意味を理解すること

◇接続語「だから」のもつ働きを理解すること

◆文の定義を理解すること

◆学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書くこと

【小学校 算数】

本市の小学校算数の全体的な結果は、全国とほぼ同様の結果、もしくはやや良好な状況であるといえる。全国の結果と同様、A問題に比べてB問題の正答率が17ポイント程度低くなっている。二つの数量の関係を根拠を明確にして説明すること、求積に必要な長さに着目し面積が等しいことを合理的に表現すること、割合が一定のときに基準量の大小から比較量の大小を判断することなどが課題である。

数と計算

◇商が小数になる除法の計算をすること

◆三つの買い方の中から最も安くなる買い方を選択し、その選択が正しい理由を記述すること

量と測定

◇曲線部分の長さを測定する際に用いる適切な計器を理解すること

◆示された分け方で二つの三角形の面積が等しくなることを記述すること

図形

◇見取図の高さと展開図の側面の辺の長さが対応していることを理解すること

◇示された情報から二つの要素の意味を理解し、ものの位置を特定すること

数量関係

◇基準量と比較量の大きさの関係を理解すること

◆割合が同じで基準量が増えているときの比較量の大小を判断し、その判断の理由を記述すること

【中学校 国語】

本市の中学校国語の全体的な結果は、全国とほぼ同様の結果、もしくはやや良好な状況であるといえる。全国の結果と同様、A問題に比べてB問題の正答率が7ポイント程度低くなっている。目的に応じて伝えたい内容を適切に書くこと、語句の意味を理解し文脈の中で適切に使うことなどが課題である。

話すこと・聞くこと

◇話すための材料を多様な方法で集めること

◇論理的な構成や展開を考えて話すこと

書くこと

◆文の接続に注意し、伝えたい事柄を明確にして書くこと

読むこと

◇描写の効果を考え、内容を理解すること

◇文脈の中における語句の意味を理解すること

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

◇漢字の楷書と行書との違いを理解して書くこと

◇文脈の中で敬語を適切に使うこと

◆語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことの一部

◆比喩を用いた表現について理解すること

【中学校 数学】

本市の中学校数学の全体的な結果は、全国とほぼ同様の結果となっている。全国の結果と同様、A問題に比べてB問題の正答率が20ポイント程度低くなっている。数学的な解釈に基づいて事柄が成り立つ理由を説明すること、問題解決のために数学を活用する方法を考えること、事象を多面的に見ることなどが課題である。

数と式

◇具体的な事象における数量の関係を捉え、連立二元一次方程式をつくること

◆事柄が成り立つ理由を、示された方針に基づいて説明すること

図形

◇見取図、投影図から空間図形を読み取ること

◆示された方針に基づいて証明すること

関数

◇与えられた一次関数の式について、 x の値に対応する y の値を求めること

◆事象を理想化・単純化して事柄を数学的に捉え、他の事象との関係を考えること

資料の活用

◆ヒストグラムから相対度数を求めること

◆資料の傾向を的確に捉え、事柄の特徴を数学的に説明すること

◎生活習慣や学習環境に関する質問紙調査結果より（抜粋）

○朝食を毎日食べている。	小学校	95.4%	中学校	91.4%
○自分にはよいところがあると思う。 . .	小学校	74.3%	中学校	65.0%
○将来の夢や目標を持っている。	小学校	85.2%	中学校	71.1%
○テレビゲームの時間が2時間以上（※） . .	小学校	29.9%	中学校	31.0%
○学校の授業時間以外の勉強時間。（※）				
◎2時間以上	小学校	35.0%	中学校	40.4%
◎30分以下	小学校	18.8%	中学校	17.1%
○家で自分で計画を立てて勉強している。	小学校	55.3%	中学校	42.2%
○家の人（兄弟姉妹を除く）と普段夕食を食べる。				
小学校	86.8%	中学校	78.9%	
○家の人と学校での出来事について話をしている。				
小学校	75.0%	中学校	64.0%	
○学校で友達に会うのは楽しい	小学校	96.5%	中学校	94.0%
○人の役に立つ人間になりたいと思う。 .	小学校	92.2%	中学校	91.0%
□地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がある。				
小学校	56.2%	中学校	48.4%	
□人の気持ちが分かる人間になりたいと思う。				
小学校	91.5%	中学校	92.8%	
□学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章を書いたりすることは難しい。	小学校	54.0%	中学校	64.0%
□普段の授業では、児童生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思いますか。				
小学校	79.5%	中学校	71.3%	

- ・ 数値には「どちらかといえば」「時々」を含む
- ・ （※）印は「普段（月～金）1日当たりの時間」

◎今後の対応

教育委員会といたしましては、調査結果から明らかになった学習や生活の状況を踏まえ、教育施策の充実を図ってまいります。また、各学校に対しましては、調査結果に基づいて児童生徒の実態を把握し、指導方法等の改善・充実が図られるよう研修会の開催、指導主事の派遣など、啓発・支援に努めてまいります。

【担当】

川崎市総合教育センター
カリキュラムセンター
担当課長 榎原 844-3730

平成 25 年度 全国学力・学習状況調査結果について

— 川崎市の児童生徒の学習・生活の状況 —

○調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

○調査の実施学年

小学校(特別支援学校小学部を含む)第 6 学年

中学校(特別支援学校中学部を含む)第 3 学年

○児童生徒に対する調査

〈教科に関する調査〉

小学校調査 - 国語・算数 中学校調査 - 国語・数学

A 主として「知識」に関する問題

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など

B 主として「活用」に関する問題

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容

〈質問紙調査〉

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

○学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

○調査実施日

平成 25 年 4 月 24 日 (水)

○教科に関する調査結果の概要

●本市では、小学校、中学校の国語、算数・数学それぞれの A・B 問題において、いずれの平均正答率も全国に対して ±5 ポイントの範囲内にある。これは文部科学省が有意差を認められないとする範囲内であるので、本市は全国とほぼ同程度の結果であるといえる。

●A 問題では本市の平均正答率は、全国公立学校の平均正答率を上回ってはいるものの、差は 1 ポイント以内であるが、B 問題では、小学校国語、算数、中学校国語では約 3 ポイント、中学校数学では 1.2 ポイント上回っている。いずれの教科においても本市の平均正答率と全国の平均正答率との差は、A 問題に比べて B 問題の方が大きい。

① 教科に関する調査

- 本市の傾向：平均正答率が全国と3ポイント以上差がある設問を取り上げている。
- 領域ごとの結果の概要：◇平均正答率から判断してよい状況と考えられる設問
 - ◆平均正答率から判断して課題があると考えられる設問

小学校 国語

○調査問題の趣旨・内容

国語A－基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題。

- (例)
- ことわざの意味を理解する。
 - 資料を読み、分かったことを的確に書く。
 - 広告を読み、編集の特徴を捉える。
 - スピーチの表現の工夫を捉える。

国語B－基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題。

- (例)
- 話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして助言をする。
 - 目的や意図に応じ、内容を関係付けるなどしながら、リーフレットを編集する。
 - 2人の推薦文を比べて読み、推薦している対象や理由を捉えるとともに、本や文章の読み方の違いを明確にする。

○本市の傾向

A問題では、文の定義を理解し、文のはじめの5文字を丸で囲む設問(3一)において5.9ポイント、接続語「だから」を使って1文を2文に分けて書く設問(3二(1))において4.8ポイント、ことわざ(急がば回れ)の意味として適切なものを選択する設問(2二)において3.5ポイント上回っている。学年別漢字配当表に示されている漢字(めずらしい植物を採集する)を正しく読む設問(1一(3))において7.6ポイント、学年別漢字配当表に示されている漢字(バスがていしゃした)を正しく書く設問(1二(2))において4.5ポイント下回っている。

B問題では、全ての設問において全国の平均正答率を上回っている。【ずかんの一部】の中から花火師の苦勞が具体的に書かれている内容を引用して書く設問(2二)において5.3ポイント、6年生の助言の仕方の説明として適切なものをそれぞれ選択する設問(1二)において5.1ポイント、2人の推薦文を比べて読み、それぞれの読み方として適切なものを選択する設問(3二)において4.9ポイント上回っている。

○領域ごとの結果の概要

話すこと・聞くこと

- ◇(B1一)助言の際に6年生がとった対応の説明として適切なものを選択する設問において、相手の立場や状況を感じ取って聞くことは、相当数の児童ができています。(82.2%)
- ◆(A7)選手宣誓文の表現の工夫とその効果を説明したものとして適切なものを選択する設問において、スピーチの表現を工夫することについては、課題がある。(42.0%)

書くこと

- ◆(A3二(1))接続語「だから」を使って1文を2文に分けて書く設問において、文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くことについては、課題がある。(28.2%)

- ◆ (B 2 三) 現在の打ち上げ花火に関する複数の情報を関係付けた上で、自分の考えを具体的に書く設問において、目的や意図に応じ、複数の内容を関係付けながら自分の考えを具体的に書くことについては、課題がある。(18.4%)

読むこと

- ◆ (A 6 アイ) 焚火とその周りの景色との関係を表したものとして適切なものを選択する設問において俳句の情景を捉えることについては、課題がある。(46.0%)
- ◆ (B 3 一イ) 読書経験に基づいた推薦の理由を書く設問において、2人の推薦文を比べて読み、推薦している対象や理由を捉えることについては課題がある。(46.8%)

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ◇ (A 2 二) 「急がば回れ」の意味として適切なものを選択する設問において、ことわざの意味を理解することは、相当数の児童ができている。(89.6%)
- ◇ (A 3 二(2)) 「だから」と同じような働きをする接続語として適切なものを選択する設問において、接続語のもつ働きを理解することは、相当数の児童ができている。(85.1%)
- ◆ (A 3 一) 文のはじめの5文字を丸で囲む設問において、文の定義を理解することについては、課題がある。(42.4%)
- ◆ (A 1 二) 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書くことについては、課題がある。
(1) 焼く 70.1 % (2) 停車 42.4 % (3) 設ける 51.0%

○授業改善に向けて

話すこと・聞くこと

○スピーチの効果を交流し、表現技法を高める

多様な場や相手に対して話すことができるような機会を設定し、話す目的や意図を明確に意識させるとともに、聞き手にどのように受け止められているか、相互に交流する場を設けることが効果的である。表現の工夫に関する事項「(ケ) 比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと」と関連させ、比喩や反復、擬声語・擬態語、体言止めや倒置などの表現技法を活用することを指導する。

書くこと

○目的や意図に応じて必要な内容を引用したり、関係付けたりして書く

自分の考えを明確に表現するためには、文章全体の構成の効果を考えるとともに、自分の考えを根拠付けるための具体的な例を引用したり、複数の事実を関係付けたりして書くことが大切である。本や文章などから必要な語句や文を抜き出して自分の表現に取り入れる場合は、原文に正確に行うことや、引用した部分と自分の考えとの関係などを明確にすることなどを指導する。

読むこと

○自他の読み方を交流し効果的な読み方を工夫する

多様な本や文章を読み、目的に応じて解説や推薦などの文章として考えをまとめ発表し合い、自他の読み方の工夫などについて交流することが、自分の考えを広げたり深めたりすることにつながる。本の特徴を捉えて推薦するためには、本をよく読み込み、相手に伝わるような構成や推薦するための言葉などに注意して叙述を整えること、対象となる本の内容や、書き手に関連する本を重ねて読んだり、書き手自身のことについて調べたりすることが大切である。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

○当該学年までに配当されている漢字を習得する

各教科等の学習や日常生活で実際に使うことで、確実に習得できるように指導する。漢字の成り立ちやへん、つくりなどの構成に対する興味や関心を高めるとともに、中学年からは国語辞典や漢字辞典を日常的に利用し、自ら語彙を拡充しようとする習慣を身に付けさせることが重要である。

小学校 算数

○調査問題の趣旨・内容

算数A－基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題。

- (例) ■ 整数、小数、分数の四則計算をする。
■ 単位量当たりの大きさを求める式の意味として正しいものを選ぶ。
■ 合同な三角形をかくことができる条件を選ぶ。
■ 基準量と割合を基に、比較量の大きさとして適切なものを選ぶ。

算数B－基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題

- (例) ■ 示された情報を基に条件に合うものを選択し、その理由を記述する。
■ 表の数値を基に、二つの数量の関係が比例していない事実を記述する。
■ 単位量当たりの大きさに着目して筋道を立てて考え、数量の関係を記述する。
■ 基準量と割合の変化から比較量の大小を判断し、その理由を記述する。

○本市の傾向

A問題では、余りのある除法の場面において、四捨五入で数を適切に処理する方法を理解する設問(2)において3.0ポイント、被除数を求める式を理解する設問(3)において3.7ポイント、基準量と比較量の大きさを理解する設問(8(1))において4.3ポイント上回っている。台形の面積の求め方を理解する設問(5(3))において3.7ポイント下回っている。

B問題では、三つの条件に全てにあてはまる乗り物を判断する設問(1(1))において5.4ポイント、二つの数量の関係が比例の関係でないことを数と言葉を用いて記述する設問(2(3))において3.9ポイント、台形の場合は4等分にならないわけを選択する設問において(3(3))において5.0ポイント、示された式に数値を当てはめて計算し、計算の結果の大小を基に判断する設問(4(3))において6.8ポイント上回っている。4(2)において0.1ポイント下回った以外は、全国の平均正答率を上回っている。

○領域ごとの結果の概要

数と計算

- ◇ (A 1 (4)) $6 \div 5$ を計算する設問において、商が小数になる除法の計算をすることは、相当数の児童ができています。(88.3%)
- ◆ (B 1 (1)) 残りの乗り物券の枚数と乗る予定の乗り物を基に、二人がまだ乗る予定になく一緒に乗ることができる乗り物を書く設問において、条件に当てはまる乗り物を判断することについては、課題がある。(56.4%)

量と測定

- ◇ (A 5 (1)) 木のまわりの長さを測定する際に用いる計器を適切に選ぶ設問において、曲線部分の長さを測定する際に用いる適切な計器を理解することは、相当数の児童ができています。(97.0%)
- ◆ (B 3 (2)) 示された分け方が元の長方形を4等分していることの説明として、二つの三角形の面積が等しいことを各設問において、等しくなることを記述することについては、課題がある。(44.0%)

図形

- ◇ (A 7 (1)) 円柱について、展開図に示された側面の長方形の縦の辺の長さを書く設問において見取図の高さと展開図の側面の辺の長さとは対応していることを理解することは、相当数の児童ができています。(89.5%)

- ◆ (A6) 三角形ABCと合同な三角形をかくことができる条件を選ぶ設問において、合同な三角形をかくために必要な条件を理解することについては、課題がある。(64.0%)

数量関係

- ◇ (A8(1)) 500gの120%に当たる重さについて、適切なものを選ぶ設問において、割合が100%を超えるときに、基準量と比較量の大きさの関係を理解することは、相当数の児童ができています。(81.0%)
- ◆ (B4(3)) 示された式を基に北チームの勝ち点の合計を求める式を書き、勝ち点の合計と順位を書く設問において、計算の結果を基に判断することについては、課題がある。(57.4%)

○授業改善に向けて

数と計算

○説明を振り返り、説明に必要な対象や根拠を明らかにすることができるようにする

理由を説明する際には、筋道を立てて考えた過程を明確にして説明することが大切である。また、その説明を振り返り、説明する対象や根拠についてももれなく説明しているかについて見直すことが大切である。説明する対象を明らかにしていない説明や根拠となる事実が不足している説明を取り上げ、説明として何が不足しているのかについて説明し合うことを通して、より一層の理解へつなげることができる。

量と測定

○求積に必要な長さに着目し、面積が等しいことを合理的に表現できるようにする

図形の面積の大小または相等を判断するには、計算でそれぞれの面積を求めなくても、面積を求める公式から必要な長さに着目することで可能になる。求積のためにどの部分の長さを測る必要があるかを考えることや必要な情報を自ら選び出し面積を求めることなどが重要である。また、高さを固定した平行四辺形や三角形について、底辺の長さが2倍や3倍になるときの面積の変化を考えさせることや長さが小数になる場合の面積を考えさせることなどが面積の公式の意味について理解を深めることにつながる。

図形

○合同な三角形をかくための条件を見いだすことができるようにする

合同な三角形をかくために必要な条件を、三角形の形が一つに決まるという観点から調べることが大切である。合同な図形をかいたり、作ったりする活動を通して、どのような条件を用いれば合同な図形をかくこと、作ることができるかに着目することで、三角形の合同条件について実感的に理解できるようになる。また、かいたり、作ったりした図形が合同であるかどうか、条件にあっているかどうかを確かめることにより、確かな根拠を基に説明する態度を育てる。

数量関係

○割合が一定のときに、基準量の大小から比較量の大小を判断できるようにする

買い物の際に割引された金額を求めるなど、比較量を求める場合は、日常生活において数多く存在する。このとき、 $(\text{基準量}) \times (\text{割合}) = (\text{比較量})$ という関係を基に、割合が一定のときの比較量の大小を基準量の大小と関連させて判断することが必要である。児童が目的意識をもって、問題の解決に向けて、より適切な表やグラフを選択し、読み取り、判断するなど表やグラフを活用できるようにする。このような活動を通して、算数を学ぶことの楽しさや意義を実感できるようにする。

中学校 国語

○調査問題の趣旨・内容

国語A ー基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

- (例) ■ 話合いの方向を捉えた司会の発言として適切なものを選択する。
■ 出された意見を整理して、決定の理由を適切に書く。
■ 前日までに申込みをしなくても中学生が参加できる講座番号を選択する。
■ 「かすみ」や「雲」のように見えたものを本文中から抜き出す。

国語B ー基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題

- (例) ■ 「かるた」について分かったことを基に、さらに調べたいことと調べる方法を具体的に書く。
■ 文章を読んで感じたことや考えたことを具体的に書く。
■ 間違えやすい漢字を学習する際の注意点やコツを、漢字の特徴を取り上げて説明する。

○本市の傾向

A問題では、文脈の中で語句の意味を理解し、適切な語句（友達に将来の抱負を話す）を選択する設問（8三イ）において4.9ポイント、文脈に即して漢字（社会を風刺する）を正しく読む設問（8二2）において4.4ポイント、文章の展開に即して内容を捉え、「小麦はそういうわけにはいきません」と述べている理由として適切なものを選択する設問（5二）において4ポイント上回っている。文脈に即して漢字（着物に合わせてオビを選ぶ）を正しく書く設問（8一3）において6.5ポイント下回っている。

B問題では、全ての設問において全国の平均正答率を上回っている。文章を読んで感じたことや考えたことを具体的に書く設問（2三）において5.4ポイント、間違えやすい漢字を学習する際の注意点やコツを、漢字の特徴を取り上げて説明する設問（3三）において3.8ポイント、新聞記事の書き方の特徴を説明したものとして適切なものを選択する設問（3一）において3.5ポイント上回っている。

○領域ごとの結果の概要

話すこと・聞くこと

- ◇（A6一）ボランティア活動をテーマに話すための取材の仕方の説明として適切なものを選択する設問において、話すための材料を多様な方法で集めることは、相当数の生徒ができています。（86.5%）
- ◇（A6二）カードを使って話す際に使用する言葉の組合せとして適切なものを選択する設問において、論理的な構成や展開を考えて話すことは、相当数の生徒ができています。（83.3%）
- ◆（A1一二）話合いでの司会の役割を理解することは相当数の生徒ができています（90.5%）が、話合いの方向を捉えて司会の役割を果たすことについては、指導の充実が求められる。（56.6%）

書くこと

- ◆（A3二）出された意見を整理して、決定の理由を適切に書く設問において、文の接続に注意し、伝えたい事柄を明確にして書くことについては、課題がある。（48.6%）

読むこと

- ◇（A2二）「あの枯れ枝の梢を……うれしげであることだろう。」と筆者が感じた理由を説明したものとして適切なものを選択する設問において、描写の効果を考え、内容を理解することは、相当数の生徒ができています。（89.6%）

- ◇ (A 5 一) 米の断面図に入る言葉として適切なものを選択する設問において、文脈の中における語句の意味を理解することは、相当数の生徒ができています。(87.1%)
- ◆ (B 3 一) 新聞記事の書き方の特徴を説明したものとして適切なものを選択する設問において、文章の構成や表現の特徴を捉えることについては、指導の充実が求められる。(64.5%)

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ◇ (A 8 四) 行書で書かれた漢字「板」を楷書で書く設問において、漢字の楷書と行書との違いを理解して書くことは、相当数の生徒ができています。(96.5%)
- ◇ (A 8 五 2) 文脈の中で敬語を適切に使うことは、相当数の生徒ができています。(92.4%)
- ◆ (A 8 三) 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことについては、一部に課題がある。
ア 閉口 47.1% イ 抱負 67.6%
- ◆ (A 8 七 1) 「かすみ」や「雲」のように見えたものを本文中から抜き出す設問において、比喩を用いた表現を理解することについては、課題がある。(51.5%)

○授業改善に向けて

話すこと・聞くこと

○司会の役割を理解し、状況に応じてその役割を果たす

司会の役割としては、討論が目的に沿って進むよう、話合いの方向を捉えて提案や発言の内容を整理したり、促したり、まとめたりすることなどがある。具体的な場面を設定して、進行の仕方や参加者への声の掛け方などを考えるように指導する。司会の役割に着目して話合いを振り返るためには、録音や録画などの機器を活用すると効果的である。

書くこと

○目的に応じて伝えたい内容を適切に書く

報告をする文章を書く際には、目的に応じて伝えたい事柄を明確にし、相手に効果的に伝わるように分かりやすい説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりすることが大切である。また、接続語の使用や段落構成の工夫などによって、根拠となる部分が明確になるように記述することを指導する。自分の表現に役立てるために、文章の構成や書き方を工夫した点について交流したり、助言し合ったりすることも効果的である。

読むこと

○文章の構成や表現の特徴について自分の考えをもつ

新聞の事件や出来事の報道記事は、結論を見出しで先に示し、リードから本文へと次第に詳しく記述されるという特徴がある。必要な部分に効率よく着目し、情報を読み取るためには、資料の特性を生かした読み方を身に付けることが求められる。様々な形態の文章を取り上げ、構成や展開、表現の特徴を分析的に捉え、その工夫や効果について自分の考えをもつことを指導することが重要である。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

○語句の意味を理解し文脈の中で適切に使う

辞書的な意味を踏まえ、文脈の中における語句の意味が捉えられるように、多様な言語活動を通して指導する。語句の意味について調べたことを記録させたり、その語句を使った短文を作らせたりすることや、本などを読んで新しく出合った言葉を取り立て、辞書にある様々な意味から文脈上の意味を考えさせる学習が有効である。話すこと・聞くことの学習においても、同音の語句の意味に誤って理解されそうなどときには、漢字を例示することでこれを避けるといったような活動を取り入れることが考えられる。また、小学校の学習を踏まえて様々な慣用句やことわざに触れ、実際の言語生活で用いるようにさせることが大切である。

中学校 数学

○調査問題の趣旨・内容

数学A ー基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題

- (例) ■ 正の数と負の数とその計算，文字式の計算をする。一元一次方程式を解く。
■ 証明で用いられている図が考察対象の図形の代表であることについて、適切な記述を選ぶ。
■ 事象から一次関数の式を求める。
■ 平均値に関して、適切な記述を選ぶ。事象の起こる確率を求める。

数学B ー基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題

- (例) ■ 安静時心拍数が一定であるとするときの目標心拍数の変わり方を選び、その理由を説明する。
■ 与えられた表やグラフを用いて水温が 80°C になるまでにかかる時間を求める方法を説明する。
■ まとめ直したヒストグラムの特徴を基に、学級の生徒が美しいと思う長方形について新たにわかることを説明する。
■ 基石全部の個数を、 $3(n-2)+3$ という式で求めることができる理由を説明する。

○本市の傾向

A問題では、比例の表からグラフを選ぶ設問(10(3))において4.0ポイント、一次関数の表から、変化の割合を求める設問(11(2))において7.6ポイント、大小二つのさいころを同時に投げるときに出る目がともに1となる確率を求める設問(A14)において5.4ポイント上回っている。反比例の式からグラフをかく設問(10(4))においては6.1ポイント下回っている。

B問題では、事柄が成り立つ理由を、示された方針に基づいて説明する設問(2(1))において3.3ポイント、自然数の性質について発展的に考え予想した事柄を説明する設問(2(2))において4.7ポイント、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的説明する設問(3(2))において4.8ポイント上回っている。3ポイント以上下回っている設問はなく、全国の平均正答率を下回った設問は、(1(1))(3(3))(6(2))であった。

○領域ごとの結果の概要

数と式

- ◇ (A3(3)) 数量の関係を連立二元一次方程式で表す設問において、具体的な事象における数量の関係を捉え、方程式をつくることは、相当数の生徒ができています。(84.1%)
- ◆ (B2(1)) 2けたの自然数と、その数の十の位の数と一の位の数を入れかえた数の差が9の倍数になる説明を完成する設問において、その事柄が成り立つ理由を、示された方針に基づいて説明することに課題がある。(40.6%)

図形

- ◇ (A5(2)) 与えられた見取図から、その立体の投影図を選ぶ設問において、見取図、投影図から空間図形を読み取ることは、相当数の生徒ができています。(84.1%)
- ◆ (B4(1)) 2つの辺の長さが等しいことを、三角形の合同を利用して証明する設問において、方針に基づいて証明することに課題がある。(33.0%)

関 数

- ◇ (A 1 1 (1)) 一次関数 $y = 2x - 1$ について、 x の値から y の値を求める設問において、 x の値に対応する y の値を求めることは、相当数の生徒ができています。(83.2%)
- ◆ (B 3 (2)) 与えられた表やグラフを用いて、問題解決を説明する設問において、事象を数学的に解釈し、解決の方法を数学的説明することに課題がある。(36.5%)

資料の活用

- ◆ (A 1 4 (2)) 6月の日ごとの最高気温の分布を表したヒストグラムから、ある階級の相対度数を求める設問において、相対度数を求めることには、課題がある。(24.4%)
- ◆ (B 5 (2)) まとめ直したヒストグラムの特徴を基に、学級の生徒が美しいを思う長方形について新たに分かることを説明する設問において、資料の傾向を的確に捉え、事柄の特徴を数学的に説明することには、課題がある。(25.9%)

○授業改善に向けて

数 と 式

○事柄を予想することができるようにする

数や図形に関する性質を考察する場面では、生徒自らが事柄を予想することができるようにするために、帰納したり類推したりして予想を立て、その予想を明確に表現し確かめる活動を取り入れることが考えられる。文字を用いた式で数量及び数量の関係をとらえ説明できることを理解できるようにするためには、文字を用いた式を使って、ある命題が成り立つことを説明する場面で、文字を用いて表現すること、文字を用いた式の意味を読み取ること、計算することなどの学習が総合的に行われることが重要である。

図 形

○方針に基づいて証明することができるようにする

証明ができるようにするために、その方針に示された事柄を数学の記号で表したり、これらが成り立つ根拠を明らかにしたりして、仮定から結論を導く推論の過程を的確に表現する活動を取り入れることが考えられる。その際、図形のある性質について、推論が異なる二つの証明を読んでその相違点を説明したり、推論の過程にある誤りのある証明を読んでそれを指摘し改善したりするなど、証明を評価する活動を適宜取り入れていく。

関 数

○日常的な事象を理想化・単純化して、その特徴を的確に捉えられるようにする

日常的な事象の問題を数学の世界で考察するために、事象の変化の様子について予測したり、実際のデータの特徴を分析したりする場面を設定し、表やグラフに表すことを通して、これまでに学習した数学を使って解決できるように、事象を理想化・単純化する活動を取り入れることが考えられる。事象をとらえ説明する際は、何を明らかにしようとするかという目的意識をもち、事象をどのように解釈して数学の対象にするのかを明確にし、目的に応じて表、式、グラフを適切に選択し説明することが大切である。

資料の活用

○不確定な事象について、目的に応じて資料を収集して整理し、資料の傾向を読み取って問題を解決できるようにする

不確定な事象についての問題を解決できるようにするために、新たな目的に応じて資料を分類整理し、資料の傾向を捉え直す場面を設定することが考えられる。日常生活を題材とした問題などを取り上げ、それを解決するため必要な資料を収集し、コンピュータなどを利用してヒストグラムを作成したり代表値を求めたりして資料の傾向を捉え、その結果を基に説明するという一連の活動を経験できるようにすることが重要である。

② 学習や生活習慣などに関する質問紙調査

「質問紙調査」の概要は以下に示すとおりであるが、特に記載ある場合を除き、数値には「どちらかといえば・・・」や「時々・・・」と回答した割合も含めている。

《全般》

【小学校】

- 400字詰め原稿用紙 2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思うと回答している児童の割合は、平成21年度と比べやや低くなっている。 H21 63.4%→H25 59.0%
- 学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思うと回答している児童の割合は、平成21年度と比べて、低くなっている。 H21 59.9%→H25 54.0%

【中学校】

- 400字詰め原稿用紙 2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思うと回答している生徒の割合は、平成21年度と比べやや低くなっている。 H21 70.4%→H25 66.0%
- 学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思うと回答している生徒の割合は、平成21年度と比べて、低くなっている。 H21 71.7%→H25 64.0%

<学習状況>

【小学校】

- 授業で、以下の取組をよく行っていると思うと回答している児童の割合は、平成21年度と比べ高くなっている。
 - ・本やインターネットを使って、グループで調べる活動 H21 48.9%→H25 57.5%
 - ・児童の間で話し合う活動 H21 73.1%→H25 79.5%
- 授業で、自分の考えを発表する機会が与えられていると思うと回答している児童の割合は、平成21年度と比べて、やや高くなっている。 H21 77.2%→H25 81.1%

【中学校】

- 授業で、以下の取組をよく行っていると思うと回答している生徒の割合は、平成21年度と比べ高くなっている。
 - ・本やインターネットを使って、グループで調べる活動 H21 24.3%→H25 35.0%
 - ・自分の考えを発表する機会が与えられていると思う。 H21 69.7%→H25 78.0%
 - ・生徒の間で話し合う活動 H21 51.5%→H25 71.3%

「授業で、自分の考えや発表する機会が与えられていると思う」と回答した児童生徒の割合は、21年度と比べると、小学校は3.9ポイントとやや高く、中学校は8.3ポイント高くなっており、授業の中で子どもたちが発表する機会が多くなっていることがうかがえる。また、「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しい」と回答した児童生徒の割合は、小学校は5.9ポイント、中学校は7.7ポイント低くなり改善していることから、自分の考えを書き、お互いの考えを出し合い、話し合ういわゆる思考力・判断力・表現力等を育てる授業づくりが進められていると考える。

<学習時間等>

【小学校】

(家庭学習)

○ 以下と回答している児童の割合に、平成 21 年度に比べやや高くなっている。

- ・家で、学校の授業の予習をしている H21 31.0%→H25 33.4%
- ・家で、学校の授業の復習をしている H21 31.9%→H25 35.0%

○ 以下と回答している児童の割合に、平成 21 年度と比べ大きな変化は見られない。

- ・家で、自分で計画を立てて勉強をしている H21 54.4%→H25 55.3%
- ・家で、学校の宿題をしている H21 93.4%→H25 95.2%

(学習時間)

○ 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1 日当たり 1 時間以上勉強をすると回答している児童の割合は、平成 21 年度と比べ大きな変化は見られない。 H21 57.0%→H25 57.8%

○ 学校が休みの日に、1 日当たり 1 時間以上勉強をすると回答している児童の割合は、平成 21 年度と比べやや高くなっている。 H21 48.3%→H25 51.9%

(学習塾)

○ 学習塾で勉強をしていると回答している児童の割合は、平成 21 年度と比べ大きな変化は見られない。 H21 60.6%→H25 62.0%

【中学校】

(家庭学習)

○ 以下と回答している生徒の割合は、平成 21 年度と比べ高くなっている。

- ・家で、自分で計画を立てて勉強をしている H21 36.1%→H25 42.2%
- ・家で、学校の授業の予習をしている H21 25.6%→H25 32.0%
- ・家で、学校の授業の復習をしている H21 29.7%→H25 36.8%

○家で、学校の宿題をしていると回答している生徒の割合は、平成 21 年度とやや高くなっている。 H21 76.0%→H25 78.6%

(学習時間)

○ 以下と回答している生徒の割合は、平成 21 年度と比べ高くなっている。

- ・学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1 日当たり 1 時間以上勉強をする H21 63.7%→H25 69.5%
- ・学校が休みの日に、1 日当たり 1 時間以上勉強をする H21 51.9%→H25 60.1%

(学習塾)

○ 学習塾で勉強をしていると回答している生徒の割合は、平成 21 年度と比べ大きな変化は見られない。 H21 70.0%→H25 71.9%

「学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1 日当たり 1 時間以上勉強をする」と回答した児童生徒の割合は 21 年度と比べて小学校は 0.8 ポイントと大きな変化は見られないが、中学校では 5.8 ポイント高くなっている。小学校で約 6 割、中学校で約 7 割である。また、「学習塾で勉強をしている」と回答した児童生徒の割合は、小学校で約 6 割、中学校で約 7 割である。「家で、学校の宿題をしている」と回答した児童生徒の割合は、小学校で 9 割を超えているのに対して、中学校では約 8 割である。このことは、中学生になると部活動や学習塾などがあり、放課後学習する場所や時間、内容が多様化していることがうかがわれる。これらのことから、学校では、児童生徒の実態に合わせ家庭学習の課題の与え方について、共通確認をして取り組んでいく必要がある。

<学校生活等>

【小学校】

- 学校で友達に会うのは楽しいと思うと回答している児童の割合は、平成 21 年度と比べ大きな変化は見られない。 H21 96.4%→H25 96.5%
- 25 年度に新たに調査した内容については以下のとおり。
 - ・学校に行くのは楽しいと思うと回答している児童 86.1% 全国 85.0%

【中学校】

- 学校で友達に会うのは楽しいと思うと回答している生徒の割合は、平成 21 年度と比べ大きな変化は見られない。 H21 94.3%→H25 94.0%
- 25 年度に新たに調査した内容については以下のとおり。
 - ・学校に行くのは楽しいと思うと回答している生徒 80.1% 全国 80.5%

「学校に行くのは楽しいと思う」と回答した児童生徒の割合は、小中学校とも 8 割を超えており、楽しく充実した学校生活を送れている子どもたちが多いことがうかがわれる。また、「学校で友達に会うのは楽しいと思う」と回答した児童生徒の割合は、21 年度と比べると、大きな変化は見られないが、小中学校とも 95% 前後であることから、学校生活の楽しさには友達の存在が大きく関わっていると思われる。今後も、学校では子ども同士が支え合い、励まし合う場面を設定する必要がある。

<家庭でのコミュニケーション等>

【小学校】

- 以下と回答している児童の割合は、21 年度と高くなっている。
 - ・家の人と学校での出来事について話をする H21 68.5%→H25 75.0%
 - ・携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っている H21 36.6%→H25 52.1%
- 以下と回答している児童の割合は、21 年度と比べやや高くなっている。
 - ・普段(月～金曜日)、家の人と一緒に夕食を食べている H21 84.3%→H25 86.8%
 - ・家の手伝いをしている H21 74.6%→H25 77.6%

【中学校】

- 以下と回答している生徒の割合は、21 年度と比べ高くなっている。
 - ・家の人と学校での出来事について話をする H21 56.7%→H25 64.0%
 - ・携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っている H21 45.3%→H25 59.8%
- 以下と回答している生徒の割合は、平成 21 年度と比べ大きな変化は見られない。
 - ・普段(月～金曜日)、家の人と一緒に夕食を食べている H21 77.4%→H25 78.9%
 - ・家の手伝いをしている H21 60.1%→H25 61.5%

「家の人と学校での出来事について話をする」と回答した児童生徒の割合は、21 年度と比べると、小学校は 6.5 ポイント、中学校は 7.3 ポイント高くなっており、子どもたちが家族と関わりを望んでいることがうかがわれる。また、「携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っている」と回答した児童生徒の割合は、21 年度と比べると、小学校は 15.5 ポイント、中学校は 14.5 ポイント高くなっている。このことから、子どもたちの携帯電話等の利用率が高くなったことと関連して、各家庭において子どもと話し合い、それぞれのルールづくりを進めていることがうかがわれる。

<基本的な生活習慣>

【小学校】

- 以下と回答している児童の割合は、21年度と比べ高くなっている。
 - ・ 普段(月～金曜日)、午前7時より前に起きる H21 55.2%→H25 61.1%
 - ・ 普段(月～金曜日)、1日当たり1時間以上テレビゲームをする H21 47.7%→H25 53.7%
- 毎日、同じくらいの時刻に寝ていると回答している児童の割合は、21年度と比べやや高くなっている。 H21 70.2%→H25 75.0%
- 以下と回答している児童の割合は、21年度と比べ大きな変化は見られない。
 - ・ 朝食を毎日食べている H21 95.1%→H25 95.4%
 - ・ 毎日、同じくらいの時刻に起きている H21 87.1%→H25 88.6%
 - ・ 普段(月～金曜日)、8時間以上睡眠をとることが多い H21 69.5%→H25 71.1%
- 土曜日の午前は、習い事やスポーツ、地域の活動に参加していると回答している児童が24.0%、家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたりしていると回答している児童が20.8%、午後は、習い事やスポーツ、地域の活動に参加していると回答している児童が26.2%、友達と遊んでいると回答している児童が16.5%である。

【中学校】

- 以下と回答している生徒の割合に、21年度と比べ高くなっている。
 - ・ 毎日、同じくらいの時刻に寝ている H21 64.8%→H25 71.0%
 - ・ 普段(月～金曜日)、午前7時より前に起きる H21 45.8%→H25 56.8%
 - ・ 普段(月～金曜日)、1日当たり1時間以上テレビゲームをする H21 45.1%→H25 50.2%
- 以下と回答している生徒の割合に、21年度と比べ大きな変化は見られない。
 - ・ 朝食を毎日食べている H21 89.9%→H25 91.4%
 - ・ 毎日、同じくらいの時刻に起きている H21 88.6%→H25 90.1%
 - ・ 普段(月～金曜日)、8時間以上睡眠をとることが多い H21 25.3%→H25 23.8%
- 土曜日の午前は、校の部活動に参加していると回答している生徒が62.2%、午後は、学校の部活動に参加していると回答している生徒が34.9%、家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたりしていると回答している生徒が16.1%である。

「普段(月～金曜日)、午前7時より前に起きる」と回答した児童生徒の割合は、21年度と比べると、小学校は5.9ポイント、中学校は11.0ポイント高くなっており、早起きの生活習慣が身に付いた子どもたちが増えている。「普段(月～金曜日)、8時間以上睡眠をとることが多い」と回答した児童生徒の割合は、小中学校とも21年度と比べ大きな変化は見られないが、小学校で約7割、中学校で約2割である。中学生になると就寝時間が遅くなることがうかがわれる。また、「朝食を毎日食べる」と回答した児童生徒の割合は、小中学校とも21年度と比べて大きな変化は見られないが、小中学校とも9割を超えている。

<地域との関わり等>

【小学校】

○ 今住んでいる地域の行事に参加していると回答している児童の割合は、21年度と比べ大きな変化は見られない。
H21 45.8%→H25 46.1%

【中学校】

○ 今住んでいる地域の行事に参加していると回答している生徒の割合は、21年度と比べやや高くなっている。
H21 27.9%→H25 30.2%

<社会に対する興味・関心>

【小学校】

○ 25年度に新たに調査した内容については以下のとおり。

- ・ 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心があると回答している児童
56.2% 全国 57.4%
- ・ 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがあると回答している児童
34.6% 全国 38.6%

【中学校】

○ 25年度に新たに調査した内容については以下のとおり。

- ・ 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心があると回答している生徒
48.4% 全国 51.8%
- ・ 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがあると回答している生徒
20.8% 全国 26.8%

「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答した児童生徒の割合は、小学校で約5割、中学校で約3割である。また、「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」と回答した児童生徒の割合は、小学校で約6割、中学校で約5割である。これは、子どもたちの町や地域の捉え方や行動範囲が年齢とともに広がり、生活を意識する社会が身近な地域だけではなくることがうかがわれるが、今後も学校と保護者が協力をして、子どもたちも地域の一員であるという意識をもたせ、地域社会に積極的に関わることができるよう、働きかけていく必要がある。

<将来に関する意識>

【小学校】

- 将来の夢や目標を持っていると回答している児童の割合は、21年度と比べやや高くなっている。
H21 83.0%→H25 85.2%

【中学校】

- 将来の夢や目標を持っていると回答している生徒の割合は、21年度と比べやや高くなっている。
H21 68.4%→H25 71.1%

<自尊意識>

【小学校】

- 以下と回答している児童の割合は、21年度と比べやや高くなっている。
- ・ 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している H21 69.5%→H25 73.1%
 - ・ 自分には、よいところがあると思う H21 70.5%→H25 74.3%
- ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがあると回答している児童の割合は、21年度と比べ大きな変化は見られない。
H21 92.9%→H25 94.4%

【中学校】

- 以下と回答している生徒の割合は、21年度と比べ高くなっている。
- ・ 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している H21 56.9%→H25 63.4%
 - ・ 自分には、よいところがあると思う H21 55.9%→H25 65.0%
- ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがあると回答している生徒の割合は、21年度と比べ高くなっている。
H21 91.2%→H25 94.1%

「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童生徒の割合は、21年度と比べると小学校は2.2ポイント、中学校は2.7ポイントとやや高くなっており、小学校で約8割強、中学校約7割である。また、「自分にはよいところがある」と回答した児童生徒の割合は、21年度と比べると小学校で3.8ポイントとやや高く、中学校では、9.1ポイント高くなっており、小学校で約7割強、中学校で約6割強である。また「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」と回答した児童生徒の割合は、小中学校とも9割を超えている。

これらのことから、学校では、ものごとを最後までやり遂げ、友達や教師から評価され、自分のよさを感じられる体験や将来の夢や目標を考える学習をそれぞれの発達段階に応じて積み重ねていくことが大切である。